

2019年度 医学部 第4学年開講科目

科目名	コマ数	期間	必修・選択	科目責任者	ブロック制	頁
感染症・免疫系Ⅱ	26	後	必修	山岡 邦宏	○	3
神経系Ⅱ	32	前	必修	西山 和利		6
消化器系Ⅱ	50	前	必修	比企 直樹		9
循環器系Ⅱ	40	前	必修	阿古 潤哉		12
血液・造血器系Ⅱ	18	後	必修	鈴木 隆浩	○	15
呼吸器系Ⅱ	26	前	必修	猶木 克彦		17
運動器系Ⅱ	11	前	必修	高相 晶士	○	20
内分泌・代謝系Ⅱ	25	後	必修	七里 眞義		22
成長・発達系Ⅱ	34	後	必修	石倉 健司	○	25
生殖機能・妊娠分娩系Ⅱ	35	後	必修	海野 信也・恩田 貴志	○	28
腎・尿路系Ⅱ	25	後	必修	岩村 正嗣		31
法医学系	25	前	必修	佐藤 文子		33
予防医学系	34	前	必修	堤 明純・堀口 兵剛		35
画像・検査診断系	16	後	必修	井上 優介		38
精神系	24	後	必修	宮岡 等	○	41
皮膚系	12	後	必修	天羽 康之		43
視覚系	16	後	必修	庄司 信行	○	45
耳鼻・咽喉・口腔系	20	後	必修	山下 拓	○	47
救急・侵襲医療系	21	後	必修	岡本 浩嗣	○	49
内科学総論	18	後	必修	青山 直善	○	53
(臨床実習入門)	56	後				
外科学総論	22	前	必修	隈元 雄介	○	56
医療安全・管理学	9/15	前	必修	渋谷 明隆		58
老年医学	8	前	必修	阿古 潤哉		60

※各科目シラバスの「担当者」に付されている*記号は、当該科目に関連する実務経験（医師、学校以外での就業経験者等）のある教員を示す。

感染症・免疫系 II

科目責任者	山岡 邦宏
担当者	山岡 邦宏*・林 俊治*・一戸 昌明*・和田 達彦*・星山 隆行*・高山 陽子* 田中 住明*・有沼 良幸*・東野 俊洋*・岡田 純(兼)* 廣畑 俊成(客員教授)*・永井 立夫(非)*・久米 光(非)* 狩野 繁之(非)*・石川 章(非)*
授業の目的	感染及び免疫が関与する疾患には感染症、膠原病、アレルギー疾患、免疫不全症がある。これらの広範囲な疾患群の病因、発症機序、病理など基礎的事項は微生物学・免疫学で扱われた。この科目ではこれらの疾患群の臨床的側面、すなわち主要疾患の病態、診断、症候、治療について系統的に学習し、実際の症例の中に含まれる問題点を解決するために必要な臨床知識を得ることを目標としている。
教育内容	(1)感染症、(2)膠原病と類縁疾患、(3)アレルギー、(4)免疫不全の4つの部門に分けて講義する。 (1) 感染症については、その診断の進め方、病理、抗生剤の使い方に始まり、ウイルス性疾患、細菌感染症、食中毒、院内感染、クラミジア感染症、リケッチア、真菌感染症、寄生虫(マラリアなど)の臨床症状、検査所見、治療について講義を行う。 (2) 膠原病と類縁疾患については、膠原病・リウマチ性疾患の診かた、免疫学的検査に始まり、関節リウマチ、SLE、全身性強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、シェーグレン症候群、MCTD、血管炎症候群、HLA-B27 関連性疾患、ベーチェット病の臨床症状、検査所見、治療について講義を行う。 (3) アレルギーについては Gel と Coombs のアレルギー分類に始まり、アレルギー性疾患(特に1型アレルギー)の症候と診断法、治療について講義する。 (4) 免疫不全については、その分類に始まり、特に後天性免疫不全症候群(AIDS)の症候と診断法、合併症、治療について講義する。
教育方法	教育内容に示した内容について、教科書の他、配布するプリントに従って講義をすすめる。写真などの閲覧はパワーポイントを使用する。

(26 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	12	3	火	1	感染症	種々の感染症の病理学的特色	一戸 昌明	病理学
2	12	4	水	1	感染症	感染症の診断の進め方	和田 達彦	膠原病・ 感染内科学
3	12	6	金	1	感染症	クラミジア・マイコプラズマ・リケッチア・スピロヘータ感染症	星山 隆行	膠原病・ 感染内科学
4	12	9	月	3	膠原病	関節リウマチの疫学・病因・病態	山岡 邦宏	膠原病・ 感染内科学
5	12	9	月	4	膠原病	関節リウマチの治療の進歩	山岡 邦宏	膠原病・ 感染内科学
6	12	10	火	1	感染症	感染性胃腸炎・多剤耐性菌感染症の特徴	高山 陽子	新世紀医療 開発センター
7	12	10	火	2	感染症	感染症における抗菌化学療法	高山 陽子	新世紀医療 開発センター
8	12	10	火	3	感染症	感染症診断におけるグラム染色	林 俊治	微生物学
9	12	10	火	4	膠原病	成人 Still 病・血清反応陰性関節炎	田中 住明	膠原病・ 感染内科学
10	12	11	水	3	膠原病	SLE 及び関連疾患の病態・症状・治療(1)	有沼 良幸	膠原病・ 感染内科学
11	12	11	水	4	膠原病	SLE 及び関連疾患の病態・症状・治療(2)	有沼 良幸	膠原病・ 感染内科学
12	12	12	木	3	免疫不全	後天性免疫不全症とその合併症	和田 達彦	膠原病・ 感染内科学

13	12	12	木	4	膠原病	膠原病の免疫検査・シェーグレン症候群・抗リン脂質抗体症候群	岡田 純	北里大学保健衛生専門学院管理栄養科
14	12	13	金	1	膠原病	【特別講義】 ベーチェット病・結晶性関節炎の臨床	廣畑 俊成	客員教授
15	12	13	金	2	膠原病	血管炎症候群の診断と治療(1)	永井 立夫	非常勤講師
16	12	13	金	3	膠原病	血管炎症候群の診断と治療(2)	永井 立夫	非常勤講師
17	12	16	月	1	膠原病	強皮症の病態・症状・治療	田中 住明	膠原病・ 感染内科学
18	12	16	月	2	膠原病	多発筋炎・皮膚筋炎・MCTDの臨床	田中 住明	膠原病・ 感染内科学
19	12	16	月	3	感染症	麻疹・風疹・ヘルペス感染症など	東野 俊洋	膠原病・ 感染内科学
20	12	17	火	2	感染症	医療関連感染対策の実際	高山 陽子	新世紀医療 開発センター
21	12	17	火	3	感染症	内臓真菌症の疫学および診断と治療	久米 光	非常勤講師
22	12	17	火	4	感染症	種々の寄生虫・マラリア感染症	狩野 繁之	非常勤講師
23	12	18	水	3	アレルギー	アレルギーの病態と分類	有沼 良幸	膠原病・ 感染内科学
24	12	18	水	4	感染症	敗血症とプリオン感染症	石川 章	非常勤講師
25	12	19	木	1	感染症	内臓真菌症の診断・治療に関わる Q & A	和田 達彦	膠原病・ 感染内科学
26	12	19	木	2	感染症	ウイルス感染症	和田 達彦	膠原病・ 感染内科学

**準備学習
(予習・復習)**

予習：第3学年の感染症・免疫系1の学習内容の復習を中心とする。特に感染症と関節リウマチ序論、膠原病序論については配布されたプリントなどに再度目を通しておく。
復習：各自で毎回ノートを作成し、講義内容の復習を行いながら不明点を整理しておく。

参考図書

- (1) 教科書
『リウマチ・膠原病診療ガイドー病態・病理から診療の Tips まで』廣畑俊成 著(文光堂・2016年)
『内科学』第10版 矢崎義雄総編集(朝倉書店、2013年)
『標準感染症学』第2版 斎藤 厚 他編(医学書院、2004年)
- (2) 学生参考図書
『ハリソン内科学』原書18版 福井次矢・黒川清 監修(広川書店、2013年)
『感染症マニュアル』全面改訂第4版 山崎修道 監修(スパイラル出版、2005年)
『コンパクト 臨床アレルギー学』宮本昭正 監修(南光堂、2000年)
『リウマチ病学テキスト』改訂第2版 日本リウマチ学会生涯教育委員会・日本リウマチ財団教育研修委員会 編集(診断と治療社、2016年)
- (3) その他の参考図書
『Arthritis and Allied Conditions: A TEXT BOOK OF RHEUMATOLOGY』第15版
Koopman, WJ ed (Lippincott Williams & Wilkins、2005年)
『ベーチェット病』廣畑俊成 編集(文光堂、2016年)

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発熱などの全身症状や、関節痛などの運動器症状を理解し解釈するために必要な解剖学・生理学・微生物学・免疫学の基礎知識を説明できる。 2. 主要な膠原病・リウマチ疾患の臓器病変の病態と臨床症状を概説できる。 3. 膠原病・リウマチ疾患の診断や治療のために重要な自己抗体を概説できる。 4. 主要な膠原病・リウマチ疾患の診断方法とEBMに基づいた治療方法について概説できる。 5. 全身性感染症については、病原微生物が引き起こす臓器病変の病態を理解することにより、特異的な臨床症状と診断方法、さらにEBMに基づいた標準的な治療方法を概説できる。 6. その他の感染症については、その病原微生物、特徴的な症状、特異的治療薬を列挙できる。 7. アレルギー疾患の病態、基本的な診断方法および治療法を概説できる。
評価基準	筆記試験により行う。
AV資料	関節リウマチ／ケアネット企画制作：小林茂人、菅原正弘 感染症／医学映像教育センター制作著作 第2版

神経系 II

科目責任者	西山 和利
担当者	西山 和利*・飯塚 高浩*・北村 英二*・阿久津 二夫*・永井 真貴子* 隈部 俊宏*・佐藤 澄人*・師田 信人*・小泉 寛之*・秀 拓一郎* 山本 大輔*・清水 暁*
授業の目的	神経系 II では神経系疾患を主に扱う。3年生までに得た医学的知識に加え、神経系の正常構造と機能を理解し、主な神経系疾患の病因・病態生理・症候・診断・治療についての知識を習得する。
教育内容	神経系 II の講義には(1)脳神経内科学総論(2)脳神経内科学各論(3)脳神経外科学総論(4)脳神経外科学各論が含まれる。 (1) 脳神経内科学総論 脳神経内科学総論では、神経診断のために行われる神経診察方法とそのメカニズム、臨床的な意義についての講義が行われる。また、併せて画像診断、電気生理的診断、臨床検査等についても解説を行う。 (2) 脳神経内科学各論 脳神経内科学各論では、血管障害や変性疾患、感染症、自己免疫疾患などの様々な脳神経内科疾患の診断法、治療法、病態生理等に関して言及される。 (3) 脳神経外科学総論 脳神経外科学総論では、脳が頭蓋骨に囲まれた臓器である事による特殊性や、その解剖学、生理学及び治療学について解説される。 (4) 脳神経外科学各論 脳神経外科学各論では脳腫瘍や外傷以外にも、脊髄疾患、機能外科、血管障害の外科的治療に対する講義が行われる。
教育方法	基本的に配布資料を中心に講義を進める。 神経疾患に特有の運動症状の理解や、神経診察や電気生理検査等の解説のため、一部の講義では動画を用いる。

(32 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	4	4	木	1	脳神経内科学 総論 1	神経疾患の診断の進め方	西山 和利	脳神経内科学
2	4	4	木	2	脳神経内科学 総論 2	大脳皮質機能	西山 和利	脳神経内科学
3	4	8	月	1	脳神経内科学 総論 5	運動麻痺、筋萎縮、小脳機能、歩行障害	西山 和利	脳神経内科学
4	4	8	月	2	脳神経内科学 総論 6	感覚、反射、脊髄疾患のみかた	西山 和利	脳神経内科学
5	4	11	木	4	脳神経内科学 総論 8	電気生理 I	北村 英二	脳神経内科学
6	4	12	金	1	脳神経内科学 総論 3	脳神経 I	飯塚 高浩	脳神経内科学
7	4	12	金	2	脳神経内科学 総論 4	脳神経 II	飯塚 高浩	脳神経内科学
8	4	17	水	3	脳神経内科学 各論 6	末梢神経疾患	永井 真貴子	脳神経内科学
9	4	17	水	4	脳神経内科学 各論 9	認知症	永井 真貴子	脳神経内科学
10	4	23	火	3	脳神経内科学 各論 3	脳血管障害 I	西山 和利	脳神経内科学
11	4	23	火	4	脳神経内科学 各論 4	脳血管障害 II	西山 和利	脳神経内科学

12	4	25	木	1	脳神経内科学 各論 2	筋接合部疾患・電気生理Ⅱ	北村 英二	脳神経内科学
13	4	25	木	2	脳神経内科学 各論 5	意識障害と神経救急	北村 英二	脳神経内科学
14	5	7	火	1	脳神経内科学 各論 7	錐体外路疾患Ⅰ	西山 和利	脳神経内科学
15	5	7	火	2	脳神経内科学 各論 8	錐体外路疾患Ⅱ	西山 和利	脳神経内科学
16	5	14	火	1	脳神経内科学 総論 7	画像診断と髄液検査	阿久津 二夫	脳神経内科学
17	5	14	火	2	脳神経内科学 各論 1	不随意運動	阿久津 二夫	脳神経内科学
18	5	16	木	4	脳神経内科学 各論 10	脊髄小脳変性症	永井 真貴子	脳神経内科学
19	5	31	金	3	脳神経内科学 各論 11	てんかんと頭痛	飯塚 高浩	脳神経内科学
20	5	31	金	4	脳神経内科学 各論 12	中枢神経感染症	飯塚 高浩	脳神経内科学
21	6	5	水	1	脳神経内科学 各論 13	運動ニューロン病	西山 和利	脳神経内科学
22	6	5	水	2	脳神経内科学 各論 14	内科疾患に伴う神経疾患	西山 和利	脳神経内科学
23	6	10	月	1	脳神経内科学 各論 15	中枢神経系脱髄疾患	阿久津 二夫	脳神経内科学
24	6	10	月	2	脳神経内科学 各論 16	筋疾患	阿久津 二夫	脳神経内科学
25	6	25	火	1	脳神経外科学 総論	脳神経外科概論	隈部 俊宏	脳神経外科学
26	6	25	火	2	脳神経外科学 各論 1	悪性脳腫瘍各論	隈部 俊宏	脳神経外科学
27	6	27	木	3	脳神経外科学 各論 2	脊髄・脊椎疾患	清水 暁	脳神経外科学
28	6	27	木	4	脳神経外科学 各論 3	脳血管障害・血管内治療	山本 大輔	脳神経外科学
29	7	2	火	1	脳神経外科学 各論 4	頭部外傷・機能的疾患	佐藤 澄人	脳神経外科学
30	7	2	火	2	脳神経外科学 各論 5	小児脳神経外科	師田 信人	脳神経外科学
31	7	9	火	3	脳神経外科学 各論 6	脳血管障害の外科・もやもや病	小泉 寛之	脳神経外科学
32	7	9	火	4	脳神経外科学 各論 7	良性脳腫瘍	秀 拓一郎	脳神経外科学
準備学習 (予習・復習)					〈予習〉 講義前に講義範囲を確認し、神経系Ⅰに関連する項目に関して復習しておく。 関連した項目に関して、指定教科書の範囲を確認する。			
					〈復習〉 配布資料に基づき、講義内で解説された内容について、各自でまとめておく。 質問等は講義の時間後に各人で行う。			

<p>参 考 図 書</p>	<p>(1) 教科書 『ベッドサイドの神経の診かた』第17版 田崎義昭・斉藤佳雄 編 (南山堂) 『講義録 神経学』鈴木則宏、荒木信夫編 (メディカルビュー社) その他、 『臨床神経内科学』第5版 (南山堂) 『神経内科ハンドブック』第4版 (医学書院)</p> <p>(2) 学生参考図書 『内科学』第10版 (朝倉書店) 『ハリソン内科書』(広川書店)</p>
<p>到 達 目 標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経診断のための神経診察方法とそのメカニズム・臨床的な意義について説明できる。 2. 神経系の画像診断を理解し診断に活用できる。 3. 神経系の電気生理学的検査を理解し診断に活用できる。 4. 神経系の異常に対する血液一般・生化学・髄液検査を診断に活用できる。 5. 神経系の血管障害について診断法・治療法・病態生理が説明できる。 6. 神経系の変性疾患の病態を理解し、診断法・治療法について説明できる。 7. 神経系の自己免疫疾患・神経筋疾患について理解し、診断法・治療法について説明できる。 8. 神経系の感染症について理解し、診断法・治療法を説明できる。 9. 脳腫瘍・外傷・脊髄疾患・機能外科・血管障害の外科的治療について説明できる。 10. 内科疾患に伴う神経系の異常について理解し、診断法・治療法を説明できる。
<p>評 価 基 準</p>	<p>筆記試験による。受講態度不良や欠席は減点の対象になる。</p>
<p>A V 資 料</p>	<p>神経学的診察法・パート1 (WB VC 1102) 神経学的診察法・パート2 (WB VC 1103)</p>

消化器系 II

科目責任者	比企 直樹
担当者	比企 直樹*・佐藤 武郎*・渋谷 明隆*・細田 桂*・山下 継史*・海津 貴史* 内藤 正規*・小泉 和二郎*・久保田 美和*・石井 良幸*・田邊 聡* 田中 賢明*・村上 匡人(非)*・國分 茂博(非)*・東 瑞智*・横山 薫* 小林 清典*・奥脇 興介*・日高 央*・田島 弘*・木田 光広* 土橋 健(非)*・隈元 雄介*・中村 隆俊*・堅田 親利*・岩井 知久* 渡邊 真彰*・松永 敬二*・今泉 弘(非)*・五十嵐 正広(客員教授)*
授業の目的	消化器系では上・下部消化管と肝・胆・膵の各臓器の正常と異常の病態、形態学的変化を講義したが、消化器系診断・治療学では病態、診断、治療を講義する。BSLに臨むに当たり、臨床的事項を理解するのが目的である。
教育内容	消化器系 I で講義した内容を踏まえ、消化器疾患を食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、肝、胆・膵に分けて、それぞれの癌、粘膜障害、機能的障害などを、外科及び内科的観点から講義し、50 コマの講義で消化器疾患の病態、診断、治療を網羅する。
教育方法	教科書以外にプリントを配布するかまたは PC によるスライドを提示し、これに従って講義を進める。

(50 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	4	3	水	3	急性腹症 (イレウス・虫垂炎)	急性腹症の診断方法と治療方針、方法	佐藤 武郎	外科学
2	4	3	水	4	その他の大腸・小腸疾患	遺伝性的大腸ポリープ等、大腸癌以外の大腸疾患、その他小腸疾患について	佐藤 武郎	外科学
3	4	5	金	3	肝機能検査と黄疸	肝機能検査の解説、読み方、黄疸の病態生理	渋谷 明隆	医療管理学 研究部門
4	4	5	金	4	劇症肝炎	劇症肝炎の病態、診断、治療、予後	渋谷 明隆	医療管理学 研究部門
5	4	9	火	1	食道疾患	食道癌手術と周術期管理	細田 桂	外科学
6	4	9	火	2	食道疾患	食道癌・集学的外科治療	山下 継史	外科学
7	4	12	金	3	肝疾患の外科治療 I	肝切除術に必要な解剖、肝機能評価、各術式とその適応について	海津 貴史	外科学
8	4	12	金	4	炎症性腸疾患の診断と治療	炎症性腸疾患の診断方法と治療について	内藤 正規	外科学
9	4	15	月	3	胃の腫瘍(1)良性腫瘍	胃癌の診断と治療について	小泉 和二郎	消化器内科学
10	4	15	月	4	胃の腫瘍(2)悪性腫瘍 (化学療法)	その他の胃腫瘍の診断と治療について	小泉 和二郎	消化器内科学
11	4	16	火	1	画像診断(2)内視鏡検査	消化管内視鏡の歴史、種類、適応と禁忌・偶発症など	久保田 美和	消化器内科学
12	4	18	木	2	大腸癌の診断と治療	大腸の病期診断、外科治療の方法と意義	石井 良幸	外科学
13	4	19	金	4	消化性潰瘍	消化性潰瘍の病態、診断、治療について	田邊 聡	新世紀医療 開発センター
14	4	22	月	1	肝疾患の外科治療 II	低侵襲肝切除術や高難度肝切除術の実際を、手術ビデオ動画を供覧しながら概説	海津 貴史	外科学
15	4	22	月	2	肝細胞癌(発癌から診断)	肝癌についての前半、疫学、肝癌の特徴、早期発見や診断方法について	田中 賢明	消化器内科学
16	4	23	火	1	吸収不良症候群、蛋白漏出性胃腸症、IBS ほか	吸収不良症候群や蛋白漏出性胃腸症、過敏性腸症候群などの症状や診断法	久保田 美和	消化器内科学

17	4	23	火	2	急性肝炎	急性ウイルス性肝炎について	村上 匡人	非常勤講師
18	4	24	水	1	肝細胞癌（治療）	肝予備能、および腫瘍因子からみた治療の使い分け	田中 賢明	消化器内科学
19	4	24	水	2	肝・胆道疾患の症候と画像診断	肝胆道器疾患の臨床症状・理学的所見に加え、シミュレーション、Navigation に繋がる先端の画像診断を供覧	國分 茂博	非常勤講師
20	4	25	木	3	消化器疾患の症候(1)	腹痛のメカニズムと診断について	東 瑞智	消化器内科学
21	4	25	木	4	急性胃炎、慢性胃炎（HP 感染症を含む）	急性胃炎、慢性胃炎の病態、診断、治療およびヘリコバクターピロリ感染症について	東 瑞智	消化器内科学
22	4	26	金	3	画像診断(1)消化管造影	消化管のX線造影検査（上部消化管造影、小腸造影、注腸造影）の適応や禁忌、撮影法などの検査法、代表的な消化管造影所見について	横山 薫	消化器内科学
23	4	26	金	4	腸の炎症性疾患(1) 急性炎症性腸疾患	腸の炎症性疾患の中で、急性に経過する急性感染性腸炎、抗生物質起因性腸炎および虚血性大腸炎の病態や治療法について解説	小林 清典	新世紀医療 開発センター
24	5	15	水	3	画像診断(4)超音波、EUS、 膵・胆道造影	超音波の特性、超音波検査の原理などを説明。さらに、超音波検査の長所・短所について説明、また超音波検査の実際を症例提示し解説	奥脇 興介	消化器内科学
25	5	15	水	4	原発性硬化症胆管炎・胆道 奇形	両疾患の疾患概念、疫学、画像診断、臨床症状を解説。また病状に応じた治療方針につき説明	奥脇 興介	消化器内科学
26	5	21	火	3	胃良性腫瘍の外科治療	胃腫瘍（特に胃癌）の診断、外科治療について	比企 直樹	外科学
27	5	24	金	3	腸の炎症性疾患(2) IBD	腸の炎症性腸疾患の中で IBD と総称される潰瘍性大腸炎とクローン病を中心に、慢性に経過する腸の炎症性疾患の病態や治療法について	小林 清典	新世紀医療 開発センター
28	5	24	金	4	門脈圧亢進症	門脈圧亢進症における 4 大合併症について	日高 央	消化器内科学
29	5	27	月	3	膵疾患の外科治療	膵疾患の検査・画像所見のみかた、及び外科的治療について手術ビデオを供覧しながら概説	田島 弘	外科学
30	5	27	月	4	胃悪性腫瘍の外科治療	胃腫瘍（特に胃癌）の診断、外科治療について	比企 直樹	外科学
31	5	31	金	1	膵腫瘍	慢性膵炎の定義、臨床像治療	木田 光広	消化器内科学
32	5	31	金	2	慢性膵炎	胆嚢癌、肝外胆管癌の定義、臨床像治療	木田 光広	消化器内科学
33	6	6	木	2	肝腫瘍性病変（肝嚢胞・肝 血管腫・肝膿瘍）	肝嚢胞、肝血管腫、肝膿瘍の疫学、原因、特徴、検査、治療につき講義する。また、終了前の 15 分程度、スライド画像を示して解説	土橋 健	非常勤講師
34	6	12	水	1	良性胆道疾患の外科治療	胆道疾患の検査、画像、手術ビデオの供覧	隈元 雄介	外科学
35	6	12	水	2	悪性胆道疾患の外科治療	悪性胆道疾患の病態と治療について、手術ビデオを供覧しながら概説	隈元 雄介	外科学
36	6	14	金	3	慢性ウイルス性肝炎	慢性肝炎の病態、診断、治療、予後	渋谷 明隆	医療管理学 研究部門
37	6	14	金	4	原発性胆汁性胆管炎、自己 免疫性肝炎	自己免疫性肝疾患の病態、診断、治療、予後	渋谷 明隆	医療管理学 研究部門
38	6	20	木	2	肝硬変症（診断と治療）	B/C 型・アルコール性により、進行した肝疾患はどうなるか？その臨床と経カテーテル・内視鏡・薬物治療の実際	國分 茂博	非常勤講師
39	6	28	金	4	胆嚢癌、肝外胆管癌	胆嚢癌、肝外胆管癌の定義、臨床像治療	木田 光広	消化器内科学
40	7	1	月	2	肛門疾患	肛門疾患の診断と治療	中村 隆俊	外科学
41	7	3	水	3	消化器疾患の症候(2) (膵・胆道疾患を含む)	他の腹部症状と診断について	堅田 親利	消化器内科学
42	7	3	水	4	食道良性疾患	アカラシア、逆流性食道炎など良性疾患の病態、診断、治療	堅田 親利	消化器内科学
43	7	4	木	3	内視鏡治療	内視鏡的止血術、早期消化管腫瘍に対する内視鏡治療等について	田邊 聡	新世紀医療 開発センター
44	7	5	金	4	胆石、胆嚢炎	超音波の特性、超音波検査の原理などを説明。さらに、超音波検査の長所・短所について説明、また超音波検査の実際を症例提示し解説	岩井 知久	消化器内科学

45	7	8	月	3	アルコール性肝障害、 代謝性肝障害	①アルコール性肝障害の病態、過剰な飲酒が与える肝臓への影響、病理学的特徴 ②発生頻度は低いが知っておくべき遺伝子的な要素がある、代謝性肝疾患 ③近年メタボリックシンドロームの肝臓における病態でありかつ、肝硬変、肝癌の発生要因の一つとして重視されている非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD)、非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) を解説	渡邊 真彰	消化器内科学
46	7	8	月	4	薬物性肝疾患	クサリ剤の副作用である薬物性肝障害は、日常頻繁にみられる肝疾患だが、その確実な予防策はない。近年、新薬が次々と開発され、またクサリ剤の流通形態も緩和され、その入手が以前に比べて容易になった。更には健康食品、サプリメントも盛んに使用されている。このような時代背景が薬物性肝障害の発生頻度、病態、重症度をさらに複雑化させている。本講義では、薬物性肝障害の既知の概念から最新の知見まで解説	渡邊 真彰	消化器内科学
47	7	10	水	3	画像診断(3) CT,MRI, 血管造影, 腹部 X-P	消化器系疾患の画像診断を概説し、検査の優先順位を考える。また、主な疾患の画像所見について	松永 敬二	放射線科学
48	7	10	水	4	急性膵炎	急性膵炎の概念、発症機序、成因について説明。急性膵炎の診断基準、重症度判定基準を解説。また、臨床症状や重症度に応じた治療方針、急性膵炎に伴う合併症や生命予後についても解説	今泉 弘	非常勤講師
49	7	12	金	1	腸の腫瘍：良性腫瘍、遺伝性ポリポーシス 《特別講義》	ポリープの診断、治療、ポリープの組織分類、ポリポーシスの概論と各論、大腸癌の疫学、大腸癌の病理的事項、早期大腸癌の診断と治療、大腸癌の診断と治療、大腸癌検診について	五十嵐 正広	客員教授
50	7	12	金	2	腸の腫瘍：悪性腫瘍 《特別講義》		五十嵐 正広	客員教授
準備学習 (予習・復習)					予習：テキスト、教科書、参考図書などを受講前に読み、事前に基礎的事項を確認しておくこと。 復習：受講後、講義内容を教科書を参考に整理すること。			
参考図書					(1) 教科書 『標準外科学』第14版 監修：畠山 勝義 (医学書院) (2) 学生参考図書 『消化器病診断』(財)日本消化器病学会 (医学書院) (3) その他の参考図書 『消化器疾患 最新の治療』菅野健太郎 他 (南江堂) 『図解 消化器内科学テキスト』井廻道夫 他 (中外医学社)			
到達目標					1. 消化器系の正常構造、機能を説明できる。 2. 消化器癌の疫学、進行度分類を説明できる。 3. 消化器系癌の症候、診断、治療を説明できる。 4. 消化器系良性疾患の病態、症候、診断、治療を説明できる。 5. 症候から消化器系疾患の原因と病態生理を列挙できる。 6. 消化管感染症の病態、症候、診断、治療を説明できる。 7. 消化器系疾患に対する内視鏡治療、外科治療を概説できる。			
評価基準					①授業に対する取り組み ②試験による評価			

循環器系 II

科目責任者	阿古 潤哉
担当者	阿古 潤哉*・猪又 孝元*・庭野 慎一*・下浜 孝郎*・野田 千春* 目黒 健太郎*・小坂橋 俊美*・深谷 英平*・南 尚賢*・前川 恵美* 井上 優介*・青山 直善*・先崎 秀明*・鳥井 晋造*・宮地 鑑*・北村 律* 田中 住明*・佐藤 伸洋*・東條 美奈子(兼)*
授業の目的	循環器系 II では、循環器系疾患の病態を理解するために必要な基礎的項目、すなわち正常の調節機構とそこに生ずる病的な機転について学習する。循環器系疾患の診断のために必要な、臨床症候、身体所見、検査所見を学び、またそれらの情報の習得方法について学ぶ。循環器系疾患の治療を理解するために必要な、身体の調節機構、病的反応、それらに対する薬物・非薬物治療の作用についても学ぶ。
教育内容	1) 虚血性心疾患、心不全、不整脈・伝導障害、脈管疾患などに分けて循環器系疾患の病態生理を理解する。 2) 身体診察、心電図、心エコー図、レントゲン、各医学、各種負荷試験、心臓カテーテル検査など心血管系の臨床的評価法を学ぶ。 3) 不整脈・伝導障害、心筋虚血、動脈硬化、心不全、心筋症、心筋炎・心膜炎、高血圧、大血管疾患・末梢血管疾患、脂質異常症など循環器系疾患の各論を学ぶ。 4) 薬物治療、外科的治療、心血管インターベンション、ストラクチャルハートインターベンション、心臓リハビリテーションなど循環器系疾患の治療管理を学ぶ。
教育方法	追加教材・プリントを配布し、スライド及びビデオ等を用いて講義する。

(40 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	4	10	水	1	心電図の基礎	心電図の生理学的基礎と正常心電図	庭野 慎一	循環器内科学
2	4	10	水	2	心電図の臨床	様々な病態における異常心電図所見	庭野 慎一	循環器内科学
3	4	16	火	3	心筋虚血のメカニズム	虚血性心疾患の基礎	目黒 健太郎	循環器内科学
4	4	16	火	4	心時相と循環動態	循環器病の理解に必須な心時相と循環動態について学ぶ	東條 美奈子	医療衛生学部
5	4	17	水	1	運動負荷検査 / 負荷検査法	負荷検査の原理と実際を学ぶ	下浜 孝郎	循環器内科学
6	4	17	水	2	循環器疾患へのアプローチ (循環器内科学概論)	循環器内科学とは何か	阿古 潤哉	循環器内科学
7	4	18	木	3	心臓血管外科学総論	心臓血管外科学総論	鳥井 晋造	医療安全学 研究部門
8	4	18	木	4	弁膜症・心臓腫瘍	弁膜症の病態と治療・心臓腫瘍	鳥井 晋造	医療安全学 研究部門
9	4	19	金	1	狭心症	狭心症の病態の理解	目黒 健太郎	循環器内科学
10	4	19	金	2	心臓カテーテル検査法	心臓カテーテル検査の原理と実際	目黒 健太郎	循環器内科学
11	4	24	水	3	上室性不整脈	心房・房室接合部を起源とする不整脈	庭野 慎一	循環器内科学
12	4	24	水	4	心室性不整脈	心室を起源とする不整脈	庭野 慎一	循環器内科学
13	5	7	火	3	循環器系における再生医療	循環器系再生医療の現状と展望	青山 直善	総合診療医学
14	5	7	火	4	抗酸化・抗炎症と循環器疾患	循環器病の発症・進展にかかわるメカニズムについて理解する	東條 美奈子	医療衛生学部

15	5	9	木	3	心筋梗塞	心筋梗塞の診断と治療	南 尚賢	循環器内科学
16	5	9	木	4	大動脈疾患 《特別講義》	大動脈疾患とその治療	荻野 均	東京医科大学
17	5	10	金	3	先天性心疾患	先天性心疾患の分類と治療	宮地 鑑	心臓血管外科学
18	5	10	金	4	徐脈性不整脈	徐脈を呈する不整脈とその治療	庭野 慎一	循環器内科学
19	5	16	木	3	カテーテル治療法	虚血性心疾患に対するカテーテル治療	南 尚賢	循環器内科学
20	5	17	金	3	小児循環器疾患の診断と治療	成人先天性心疾患について	先崎 秀明	新世紀医療開発センター
21	5	17	金	4	冠動脈イメージング	冠動脈イメージングの基礎と臨床	南 尚賢	循環器内科学
22	5	28	火	1	心血管病におけるリスクファクターと生活習慣	動脈硬化のリスクについて学ぶ	野田 千春	循環器内科学
23	5	28	火	2	本態性高血圧	本態性高血圧の治療	野田 千春	循環器内科学
24	6	4	火	1	心筋症	心不全の病態理解と治療	猪又 孝元	循環器内科学
25	6	4	火	2	心膜炎と心筋炎	心膜炎と心筋炎の病態、病理	猪又 孝元	循環器内科学
26	6	13	木	1	成人心臓手術	冠動脈・弁膜症・大動脈・心不全の外科治療	北村 律	心臓血管外科学
27	6	13	木	2	不整脈とペースメーカー治療	不整脈のデバイス治療について	鳥井 晋造	医療安全学研究部門
28	6	20	木	1	失神	失神の病態と鑑別	深谷 英平	循環器内科学
29	6	27	木	1	心不全 1	心筋症の分類と治療	猪又 孝元	循環器内科学
30	6	27	木	2	心不全 2	心不全の病態理解	猪又 孝元	循環器内科学
31	7	3	水	1	ストラクチャー心疾患	ストラクチャー心疾患に対するカテーテル治療の現状と展望	目黒 健太郎	循環器内科学
32	7	3	水	2	循環器領域における抗血栓療法	抗血小板療法と抗凝固療法	阿古 潤哉	循環器内科学
33	7	4	木	1	末梢動脈疾患・静脈疾患	末梢動脈疾患・静脈疾患の基礎と臨床	美島 利昭	心臓血管外科学
34	7	4	木	4	肺循環と肺高血圧症・肺性心	肺循環の生理を学び肺高血圧症の臨床を知る	田中 住明	膠原病・感染内科学
35	7	10	水	1	心疾患と心臓超音波検査	心疾患を心エコーで評価する 1	小板橋 俊美	循環器内科学
36	7	10	水	2	心疾患と心臓超音波検査	心疾患を心エコーで評価する 2	小板橋 俊美	循環器内科学
37	7	11	木	1	循環器系の画像診断	心臓のCT・MRI 診断	井上 優介	放射線科学 (画像診断学)
38	7	11	木	2	循環器系の画像診断	心臓の核医学診断	井上 優介	放射線科学 (画像診断学)
39	7	12	金	3	心臓リハビリテーション	心臓リハビリテーションの基礎と必要性	前川 恵美	循環器内科学
40	7	12	金	4	心臓突然死と救急救命処置	突然死を来す病態と医学生としての適切な BLS	佐藤 伸洋	救命救急医学

**準備学習
(予習・復習)**

循環器系Ⅰで学習した基礎的知識を十分持ち合わせていることが受講条件であるため、知識が不足していると思われる者は、これらにつき事前学習しておくこと。また、各講義で配布される資料を中心とした復習をしっかりと行うこと。

参 考 図 書	(1) 教科書 特に指定なし。講義項目ごとに指示する。 (2) 学生参考図書 ① 『心臓病学』(南江堂) ② 『新心臓病学』(医学書院) ③ 『循環器疾患・state of arts』(医歯薬出版) ④ 『ECG ケーススタディ』(新興医学出版) ⑤ 『すぐ読める心電図』(西村書店)
到 達 目 標	1) 各種循環器系疾患の病態を説明できる。 2) 循環器系疾患に関連する調節機構を説明できる。 3) 循環器系疾患に対する薬物・非薬物治療の作用を説明できる。 4) 循環器系疾患の臨床症状、身体徴候、検査所見を説明できる。 5) 循環器系疾患の診断・鑑別診断のための検査を説明できる。 6) 循環器系に関連する主要な検査(心電図、心臓超音波、カテーテル検査、核医学検査、CT/MRI 検査を含む)を説明できる。 7) 主要な循環器系疾患に対する治療を説明できる。 8) 循環器系の治療法が確立してきた歴史とその医学的背景について説明できる。
評 価 基 準	受講態度及び筆記試験による。
A V 資 料	CD による聴診トレーニング：心音編／沢山俊民著一改訂第2版—南江堂 1994. 1 Interactive electrocardiography / text by Stephen Scheidt, Contributed by, —Novartis Pharmaceuticals, c1997. Beyond heart sounds (日本語版)：音と動画による新しい身体診察トレーニング/John Michael Criley, David Gerard Criley, Stuart Ross Criley 著；森経春 訳—南江堂 2001.4 コトコフ音／Abe Ravin 著 新城之介訳—ISBN：PRICE：3000NBN：19— 心電図の基礎／指導・出演：前田如矢 製作：ビデオジャポニカ，1985—(心電図の読み方) 心エコー検査の役割／Natesa G. Pandian. 一山之内製薬(発売) 1992 ほか、視聴覚センターの AV リスト参照
そ の 他 注 意 事 項	1) 積極的に質問し、自ら学ぶ姿勢を身につけて欲しい。 2) 各講義において重要項目を説明するので、配布される資料を中心に勉強すること。

血液・造血器系Ⅱ

科目責任者	鈴木 隆浩
担当者	鈴木 隆浩*・宮崎 浩二*・鎌田 浩稔*・田寺 範行*・石田 隆*・堀米 佑一* 道下 雄介*・大坂 学*・木村 裕和*
授業の目的	血液・造血器系で学んだ総合的な基礎知識を復習すると共に、各疾患についてさらに踏み込んだ臨床的知識を習得し、最近の知見も理解する。 主要な血液疾患に関する病態・症候・検査法・診断法・治療法について学び、臨床実習を行う上で、基本となる医学知識を習得することを目標とする。
到達目標	1. 正常の造血システムについて説明できる。 2. 各種症候から造血器疾患の診断に至る流れを説明できる。 3. 各種血球・凝固システムの主要な異常について、診断から治療までの流れについて説明できる。 4. 分子標的療法・抗体療法、造血幹細胞移植について説明できる。 5. 支持療法である感染症対策、輸血療法について検査・治療を説明できる。
教育方法	スライドを主体とした講義となる。講義毎にプリントを配布する。

(18コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	9	2	月	3	血液疾患の診断	末梢血と骨髄血	鈴木 隆浩	血液内科学
2	9	2	月	4	白血球系疾患	多発性骨髄腫と類縁疾患	堀米 佑一	血液内科学
3	9	3	火	3	血液疾患の治療	造血幹細胞移植	田寺 範行	血液内科学
4	9	3	火	4	血液疾患の診断	貧血・臓器腫大・診察概論	鎌田 浩稔	血液内科学
5	9	4	水	1	血液疾患の診断	血液診療における検査と解釈	鈴木 隆浩	血液内科学
6	9	4	水	2	血液疾患の治療	血液疾患と感染症	鈴木 隆浩	血液内科学
7	9	5	木	1	赤血球系疾患	貧血性疾患(1)	鈴木 隆浩	血液内科学
8	9	5	木	2	赤血球系疾患	貧血性疾患(2)	鈴木 隆浩	血液内科学
9	9	9	月	3	血液疾患の診断	血液細胞アトラス	堀米 佑一	血液内科学
10	9	9	月	4	血液疾患の治療	抗腫瘍薬の作用と副作用	道下 雄介	血液内科学
11	9	10	火	3	白血球系疾患	急性白血病	木村 裕和	血液内科学
12	9	10	火	4	白血球系疾患	慢性骨髄性白血病・骨髄増殖性疾患	木村 裕和	血液内科学
13	9	11	水	3	白血球系疾患	悪性リンパ腫と関連疾患 (B細胞)	大坂 学	血液内科学
14	9	11	水	4	白血球系疾患	悪性リンパ腫と関連疾患 (T/NK細胞)	大坂 学	血液内科学
15	9	12	木	1	血液疾患の治療	腫瘍化メカニズムと分子標的療法	鈴木 隆浩	血液内科学
16	9	12	木	2	血液疾患の治療	補助療法・輸血療法・鉄キレート剤	鈴木 隆浩	血液内科学
17	9	13	金	1	出血・血栓性疾患	血小板減少性疾患	宮崎 浩二	輸血・細胞移植学

18	9	13	金	2	出血・血栓性疾患	血友病・凝固因子異常症	宮崎 浩二	輸血・細胞移植学
予習・復習		予習：3年生の血液・造血器系 I の配布プリントを復習する。 復習：講義プリントを復習する。						
参考図書		『病気がみえる Vol.5 血液』（第2版）鈴木隆浩ほか 監修（MEDIC MEDIA）2017 『血液内科クリニカルスタンダード』（第3版）東原、須永 編（文光堂）2016 『内科学』（第11版）矢崎義雄 総編集（朝倉書店）2017 『三輪血液病学』浅野、池田、内山 編（文光堂）2006 『血液細胞アトラス』三輪史朗（文光堂）						
評価基準		記述式問題、選択式問題で評価。						
注意事項		この講義が学生時代に血液学について受講する最後の体系化された講義になる。欠席せず真面目に授業を受けること。						

呼吸器系 II

科目責任者	猶木 克彦
担当者	猶木 克彦*・佐藤 之俊*・佐々木 治一郎*・井川 聡*・福井 朋也* 神谷 紀輝*・久保田 勝(兼)*・横場 正典(兼)*・片桐 真人(兼)* 三藤 久(兼)*・矢那瀬 信雄(名誉教授)*・大内 基史(非)* 龍華 慎一郎(非)*
授業の目的	呼吸器病学について、学生に必要な基礎知識を十分に理解させることを到達目標とする。呼吸器疾患は、日常の診療で診る機会が極めて多い疾患であり、内科学の重要な分野をなしている。本学年では臨床実習に備えて、呼吸器病診断法を「問診」、「診察」、「胸部エックス線診断」そして「呼吸機能診断」の4項目を中心に知識および系統的推論方法を修得させる。さらに主要な呼吸器疾患の臨床像についても知識および系統的推論方法を修得させることを到達目標とする。
教育内容	講義項目の詳細は講義要旨集(テキスト)として配布する。
教育方法	呼吸器系の全体像を把握するために、基礎知識の習得を目指す。 講義要旨集以外に必要に応じて配布プリント・スライドを使用して講義を進める。

(26コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	4	19	金	3	呼吸器の診察	胸部の聴診・打診の方法と所見	福井 朋也	呼吸器内科学
2	4	22	月	3	呼吸器感染症①	肺炎の分類・臨床的特徴・検査・診断方法	久保田 勝	医療衛生学部
3	4	22	月	4	呼吸器感染症②	代表的な細菌性肺炎	久保田 勝	医療衛生学部
4	4	26	金	1	胸部腫瘍①	胸部腫瘍の病因・疫学・診断	佐々木 治一郎	新世紀医療開発センター
5	4	26	金	2	胸部腫瘍②	胸部腫瘍の治療 (主に薬物療法と緩和ケア)	佐々木 治一郎	新世紀医療開発センター
6	5	8	水	3	気管支拡張症・細気管支炎	気管支拡張症、細気管支炎の疫学・原因・検査・診断・治療	横場 正典	医療衛生学部
7	5	8	水	4	胸水・胸膜炎	胸水の鑑別診断	井川 聡	呼吸器内科学
8	5	13	月	1	アレルギー関連肺疾患① (除く、気管支喘息)	サルコイドーシスの病因・疫学・診断・治療	片桐 真人	医療衛生学部
9	5	13	月	2	アレルギー関連肺疾患② (除く、気管支喘息)	過敏性肺炎、肺胞蛋白症、ランゲルハンス細胞組織球症、肺脈管筋腫症について	片桐 真人	医療衛生学部
10	5	17	金	1	肺の炎症性疾患の外科、膿胸など	肺感染症の膿胸、非結核性抗酸菌症、肺アスペルギルス症などの外科的治療の実際	大内 基史	非常勤講師
11	5	17	金	2	呼吸器感染症③	肺真菌症を中心とした特殊な呼吸器感染症	久保田 勝	医療衛生学部
12	5	22	水	3	呼吸器外科学総論	解剖、画像、症候	佐藤 之俊	呼吸器外科学
13	5	22	水	4	呼吸器内科学総論、肺結核	呼吸器内科学・肺癌治療学総論、肺結核の診断・治療	猶木 克彦	呼吸器内科学
14	6	3	月	1	肺循環障害①	特発性肺動脈性肺高血圧症を中心に肺高血圧症について	久保田 勝	医療衛生学部
15	6	3	月	2	間質性肺炎	間質性肺炎の定義・病態と特発性間質性肺炎の分類・病理・特徴	久保田 勝	医療衛生学部
16	6	7	金	1	気胸 他	気胸の原因と治療	井川 聡	呼吸器内科学
17	6	7	金	2	肺循環障害②	急性・慢性肺塞栓症の病態生理・診断・治療	龍華 慎一郎	非常勤講師

18	6	12	水	3	画像診断① 【特別講義】	胸部 X 線解剖と病変の成り立ち	矢那瀬 信雄	名誉教授
19	6	12	水	4	画像診断② 【特別講義】	種々の画像所見	矢那瀬 信雄	名誉教授
20	6	18	火	1	慢性閉塞性肺疾患	慢性閉塞性肺疾患の診断・治療	三藤 久	看護学部
21	6	18	火	2	呼吸不全、肺泡過換気と低換気	呼吸不全の病態・鑑別、肺泡過換気低換気の病態	三藤 久	看護学部
22	6	26	水	1	睡眠時無呼吸症候群	睡眠時無呼吸症候群の疫学・原因・検査・診断・治療	横場 正典	医療衛生学部
23	6	26	水	2	呼吸の診かた	呼吸機能検査の診かた	横場 正典	医療衛生学部
24	7	1	月	1	肺悪性腫瘍	肺癌の診断・治療（主に外科手術）に関する基礎知識	神谷 紀輝	呼吸器外科学
25	7	9	火	1	化学物質・粉塵・放射線による肺障害	じん肺・薬剤性肺障害・放射線性肺障害	三藤 久	看護学部
26	7	9	火	2	気管支喘息	気管支喘息の診断・治療	三藤 久	看護学部

準備学習 (予習・復習)					テキスト、教科書、参考図書などを受講前に読み、予習しておくこと。			
参考図書					<p>(1) 教科書</p> <p>『新臨床内科学』（第9版）高久史麿 他編（医学書院）</p> <p>『標準薬理学』（第7版）（医学書院）</p> <p>『呼吸器外科テキスト』日本呼吸器外科学会、呼吸器外科専門医合同委員会 編（南江堂）</p> <p>学生参考図書</p> <p>『ベイツ診察法 第2版』福井次矢 他監修（メディカルサイエンスインターナショナル）</p> <p>『Respiratory Physiology -the essentials-』（第10版）John B. West（Lippincott Williams & Wilkins）</p> <p>『ウエスト呼吸生理学入門：正常肺編 第2版』John B. West 他（メディカルサイエンスインターナショナル）</p> <p>『ウエスト呼吸生理学入門：疾患肺編 第2版』John B. West 他（メディカルサイエンスインターナショナル）</p> <p>『血液ガスわかりやすい基礎知識と臨床応用』第3版 山林一 他編（医学書院）</p> <p>『内科学』（第11版）矢崎義雄 他編（朝倉書店）</p> <p>『ハリソン内科学』（第5版）福井次矢 他監修（メディカルサイエンス・インターナショナル）</p> <p>『内科学書』（改訂第8版）小川聡 他編（中山書店）</p> <p>『胸部X線写真のABC』片山仁 監修、日本医師会 編（医学書院）</p> <p>『胸部のCT』（第3版）村田喜代史 他編（メディカルサイエンスインターナショナル）</p> <p>『気管支鏡ベストテクニック』（改訂2版）浅野文祐、宮澤輝臣 編（中外医学社）</p> <p>『新臨床腫瘍学』（改訂第5版）日本臨床腫瘍学会 編</p> <p>『新呼吸器専門医テキスト』日本呼吸器学会 編</p> <p>『肺癌診療ガイドライン』（2018年版）日本肺癌学会 編</p> <p>『成人肺炎診療ガイドライン2017』日本呼吸器学会成人肺炎診療ガイドライン2017作成委員会 編</p> <p>『結核診療ガイドライン』日本結核病学会 編（南江堂）</p> <p>『非結核性抗酸菌症診療マニュアル』日本結核病学会 編（医学書院）</p>			

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的問診ができる。 2. 聴打診の基礎を理解し、説明できる。 3. 胸部エックス線写真の基本的な異常陰影パターンを系統的に説明できる。 4. 基本的な呼吸器疾患を単なる知識の羅列ではなく系統的に説明できる。 5. 呼吸器感染症の症候、診断、治療を理解し、説明できる。 6. 呼吸器腫瘍の症候、診断、治療を理解し、説明できる。 7. 呼吸器系疾患に伴う症候に関し、その原因、病態生理、診断、治療を説明できる。 8. 呼吸器疾患に関連した「根拠に基づいた医療」を、実例を挙げて説明できる。 9. 呼吸器疾患に関する病理診断、放射線診断、内視鏡診断の目的・方法・意義を説明できる。 10. 呼吸器疾患に関する放射線・内視鏡・薬物治療の目的・方法・意義を説明できる。
評価基準	筆記試験および質問などの学習意欲を含めた授業態度による。
A V 資料	<p>『CD による聴診トレーニング 呼吸音編 改訂第 2 版』川城丈夫 監修 南江堂</p> <p>『人のハいで読める！ Dr. 山口の胸部写真読影 免許皆伝』山口哲生 著 ケアネット (DVD) (視聴覚資料 WF C17h)</p> <p>『小三 J 読影法でわかる！ Dr. 佐藤の胸部写真の楽しみ方』佐藤雅史 著 ケアネット (DVD) (視聴覚資料 WF C17s)</p>

運動器系Ⅱ

科目責任者	高相 晶土
担当者	高相 晶土*・井上 玄*・内山 勝文*・小沼 賢治*・中澤 俊之*・峰原 宏昌* 見目 智紀*・助川 浩士*・相川 淳*・岩瀬 大*・高平 尚伸(兼)*
授業の目的	整形外科は運動器疾患の診断と保存的、外科的治療をおもに行う専門分野である。その対象は身体全領域の骨・関節・筋肉・神経・皮膚組織などの形態・機能が対象とした広範囲な学問領域である。これらの整形外科的疾患を臨床実習期間に診断して治療法まで検討するには広範な専門知識が必要である。教育目標は筋骨格系、運動器の正常と疾患を理解し、更に運動器のリハビリテーション、加えて筋骨格系の加齢現象、フレイルやサルコペニア、ロコモティブシンドロームについて理解する。
教育内容	(1) 整形外科的診断法、整形外科的治療法を説明し、整形外科の基礎知識を身につける (2) 骨系統疾患・代謝性疾患について理解を深める。あらゆる疾患の特性を理解する (3) 骨折・外傷の診断と治療法について学ぶ。保存療法と手術適応につき理解する (4) 脊椎・脊髄疾患・脊椎損傷の診断と治療について学ぶ (5) 骨盤・股関節疾患の診断と治療について学ぶ。保存治療と手術について理解する (6) 肩甲帯・肘関節疾患の診断と治療について学ぶ。最新の診断方法を理解する (7) 手・末梢神経疾患の診断と治療について学ぶ。複雑な手と末梢神経について理解する (8) 先天性疾患・小児疾患の診断と治療について学ぶ (9) 骨・軟部腫瘍、骨関節の炎症性疾患について学ぶ。両者の鑑別と診断について理解する (10) 膝・足部疾患と下肢もおこる疾患について学ぶ。特に診断について理解する (11) 運動療法とリハビリテーションの概説と実際を理解する
教育方法	基本的に、テキストと推薦教科書に沿って講義を進める。不足する部分は順次、追加教材、プリントを配布するなどの対応を行っていく。

(11 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	4	4	木	3	運動器概説：診断と治療	運動器疾患の診断と治療の概説	高相 晶土	整形外科
2	4	4	木	4	肩甲帯・肘周辺	肩甲帯・肘周辺の疾患と外傷	見目 智紀	整形外科
3	4	8	月	3	骨盤と股関節	骨盤と股関節疾患	高平 尚伸	医療衛生学部
4	4	8	月	4	骨軟部腫瘍と運動器炎症性疾患	運動器の腫瘍と炎症性疾患の診断	小沼 賢治	整形外科
5	4	9	火	3	運動器リハビリテーション	リハビリテーションの基礎と実際	中澤 俊之	整形外科
6	4	9	火	4	骨系統疾患と代謝性疾患	骨系統疾患と代謝性疾患の種類と診断	内山 勝文	整形外科
7	4	10	水	3	先天性疾患と小児疾患	先天性疾患と小児疾患の診断と治療	岩瀬 大	整形外科
8	4	10	水	4	脊椎・脊髄	脊椎・脊髄疾患の診断と治療	井上 玄	整形外科
9	4	11	木	1	膝と足部	膝と足部の疾患・外傷	相川 淳	整形外科
10	4	11	木	2	手・末梢神経	手と末梢神経の疾患と外傷	助川 浩士	整形外科
11	4	11	木	3	外傷・骨折	外傷と骨折のメカニズム・診断と治療	峰原 宏昌	整形外科

準備学習
(予習・復習)

予習：推奨した教科書および大学より提供したテキストを十分に読んでおくこと。
復習：講義で話した内容を中心に復習し、テキストおよび推奨教科書で知識の整理を行って置く。

<p>参 考 図 書</p>	<p>(1) 教科書 『TEXT 整形外科学』糸満盛憲 他編集 (南山堂)</p> <p>(2) 学生参考図書 『標準整形外科学』鳥巢岳彦 他監修 (医学書院) 『神中整形外科学』杉岡洋一 監修 (南山堂) 『整形外科学診療・ハンドブック』山本 真 他 (南江堂)</p> <p>(3) その他の参考図書 『Orthopedics』Turek (Lippincott) 『整形外科診断学』辻 陽雄 他 (金原出版)</p>
<p>到 達 目 標</p>	<p>1) 腰背部痛、下肢痛の原因を列挙し説明できる</p> <p>2) 腰背部痛、下肢痛を訴える患者の診断の要点を説明できる</p> <p>3) 関節痛、関節腫脹のある患者の診断の要点を説明できる</p> <p>4) 運動麻痺、筋力低下を訴える患者の診断の要点と原因を説明できる</p> <p>5) 身体診察：四肢と脊椎の診断の要点と手順を説明できる</p> <p>6) 徒手検査（関節可動域検査、徒手筋力検査）と知覚検査を説明できる</p> <p>7) 筋骨格系画像（X線像、MRI、脊髓造影、骨塩定量）および生理検査の種類との適応を説明できる</p> <p>8) 内視鏡検査を概説できる</p> <p>9) 骨折の分類（単純と複雑）、症候、診断、治療と合併症を説明できる</p> <p>10) 骨粗鬆症の原因と病態を説明し、骨折の好発部位を列挙できる</p> <p>11) 関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷の定義、重症度分類、診断と治療を説明できる</p> <p>12) 変形性関節症の症候と治療を説明できる</p> <p>13) 関節炎の原因と治療を説明できる</p> <p>14) 骨肉腫とユーイング肉腫の診断と治療を説明できる</p> <p>15) 脊髓損傷の診断、治療とリハビリテーションを説明できる</p> <p>16) 絞扼性神経障害を列挙し、その症候を説明できる</p> <p>17) 頸椎症性脊髓症（脊椎靭帯骨化症を含む）の神経症候を説明できる</p> <p>18) 転移性脊椎腫瘍の好発部位、診断と治療を説明できる</p> <p>19) 四肢の基本的外固定法を説明できる</p> <p>20) 骨形成不全症と骨軟骨異形成症を説明できる</p> <p>21) コンパートメント症候群の概説を説明できる</p> <p>22) 整形外科疾患のリハビリテーションの概説を説明できる</p> <p>23) 筋骨格系の加齢現象、フレイル、サルコペニアについて説明できる</p>
<p>評 価 基 準</p>	<p>規定の出席率が必要である。 定期試験にて60%以上が合格である。</p>
<p>そ の 他 注 意 事 項</p>	<p>骨格、関節、筋など運動器官に関する解剖の再読。特に運動器系Ⅰを見直すことを勧める。</p>

内分泌・代謝系 II

科目責任者	七里 真義
担当者	七里 真義*・高野 幸路*・鎌田 裕二*・市川 雷師*・小川 顕史* 鈴木 陽彦*・土岐 卓也*・藤田 哲夫*・的場 健太*・守屋 達美(兼)* 松原 まどか(兼)*・齋藤 淳(非)*・平井 法博(非)*
授業の目的	内分泌・代謝系 I で修得した内分泌・代謝系の構造と機能および病理学、内分泌薬理学の知識を基礎にして主な内分泌・代謝疾患の病態生理、病因、症候、診断、治療を学び臨床実習に備える。
教育内容	(1)下垂体、(2)甲状腺、(3)副甲状腺、(4)糖尿病、(5)副腎、(6)内分泌腫瘍、(7)代謝のそれぞれの分野の疾患について、診断と検査の基本、病態生理、病因、症候、診断、治療について講義する。 (1) 下垂体では下垂体前葉系について、いろいろな原因による機能低下症と下垂体ホルモン産生腫瘍などによる機能亢進症について詳説し、後葉系については中枢性尿崩症と ADH 不適切分泌症候群を中心に講義する。視床下部異常の概念も理解できるように概説する。 (2) 甲状腺においては、甲状腺中毒症と甲状腺機能低下症について、それぞれの病態を惹起する代表的疾患であるバセドウ病と橋本病を中心に講義し、甲状腺の炎症性疾患と腫瘍性疾患についても包括的に概説する。 (3) 副甲状腺ではカルシウム、リンの調節機構の概説のあとにカルシウム、リン代謝異常を呈する疾患について、副甲状腺機能亢進症と副甲状腺機能低下症、ビタミン D 欠乏症、中毒症などを中心に講義する。 (4) 糖尿病では、糖尿病の病因、病態生理、分類、症候、診断についての総論講義に始まり、各論では 1 型・2 型糖尿病・その他の糖尿病・妊娠糖尿病のそれぞれの病態を詳説したうえで、食事療法、運動療法、薬物療法についての治療概論を展開する。また、急性代謝失調をはじめとする急性合併症、および細小血管症・大血管障害を中心とする慢性合併症についても講義する。 (5) 副腎では副腎皮質・髄質機能を理解したうえで、副腎皮質機能低下症、クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫について講義し、副腎腫瘍の外科的治療を学ぶ。 (6) 内分泌腫瘍では多発性内分泌腺腫症、ホルモン産生腫瘍、ホルモン不応症について講義する。 (7) 代謝領域では脂質異常症、肥満症・メタボリック症候群とやせ、核酸代謝異常、糖原病などの糖尿病以外の代謝疾患に加えて、低血糖のさまざまな病態、さらにビタミン欠乏症・過剰症についても講義する。
教育方法	講義要旨集には臨床内分泌代謝内科学を学ぶうえでの基礎知識に加えて、各対象疾患に関する重要な資料も掲載されており、これに添って講義を進める。写真や図などの供覧はパワーポイントも使用する。

(25 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	8	30	金	3	下垂体①	視床下部・下垂体機能と視床下部疾患	高野 幸路	内分泌代謝内科学
2	8	30	金	4	下垂体②	先端巨大症、下垂体前葉機能低下症、乳汁漏出、無月経症候群	高野 幸路	内分泌代謝内科学
3	9	6	金	1	下垂体③	下垂体後葉疾患、水代謝の調節と尿崩症、ADH 不適切分泌症候群	高野 幸路	内分泌代謝内科学
4	9	6	金	2	下垂体④	下垂体腫瘍の診断と治療	高野 幸路	内分泌代謝内科学
5	9	10	火	1	甲状腺①	バセドウ病の病態・症候・治療、甲状腺中毒症	市川 雷師	内分泌代謝内科学

6	9	10	火	2	甲状腺②	慢性甲状腺炎（橋本病）、甲状腺機能低下症	鎌田 裕二	内分泌代謝内科学
7	9	19	木	3	甲状腺③	急性化膿性甲状腺炎、亜急性甲状腺炎、無痛性甲状腺炎、甲状腺腫瘍	平井 法博	非常勤講師
8	9	19	木	4	副甲状腺①	カルシウム代謝制御と副甲状腺機能亢進症	鎌田 裕二	内分泌代謝内科学
9	10	10	木	4	副甲状腺②	副甲状腺機能低下症、骨粗鬆症、骨軟化症	市川 雷師	内分泌代謝内科学
10	10	16	水	4	内分泌腫瘍①	多発性内分泌腺腫症、消化管ホルモン産生腫瘍、異所性ホルモン産生腫瘍、ホルモン不応症	小川 顕史	内分泌代謝内科学
11	10	21	月	3	糖尿病①	糖尿病の病因、病態生理、分類、症候、診断	守屋 達美	健康管理センター
12	10	21	月	4	糖尿病②	1型・2型糖尿病・その他の糖尿病・妊娠糖尿病	土岐 卓也	内分泌代謝内科学
13	10	25	金	3	糖尿病③	治療総論（食事療法、運動療法、薬物療法）	松原 まどか	健康管理センター
14	10	25	金	4	糖尿病④	急性合併症（糖尿病性ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖症候群、乳酸アシドーシス）	鈴木 陽彦	内分泌代謝内科学
15	10	28	月	3	糖尿病⑤	慢性合併症（細小血管症、大血管障害）	的場 健太	臨床検査診断学
16	10	28	月	4	代謝①	低血糖症、ビタミン欠乏症と過剰症	鎌田 裕二	内分泌代謝内科学
17	10	30	水	3	副腎①	副腎皮質機能の調節とその検査法	齋藤 淳	非常勤講師
18	10	30	水	4	副腎②	クッシング症候群、クッシング病、異所性 ACTH 産生腫瘍	齋藤 淳	非常勤講師
19	11	8	金	4	副腎③	副腎皮質機能低下症（アジソン病と副腎性器症候群）	市川 雷師	内分泌代謝内科学
20	11	13	水	1	副腎④	原発性アルドステロン症の病態生理、診断、治療	七里 眞義	内分泌代謝内科学
21	11	13	水	2	副腎⑥	副腎腫瘍の外科的治療	藤田 哲夫	泌尿器科学
22	11	21	木	1	副腎⑤	褐色細胞腫の病態生理、診断、治療	七里 眞義	内分泌代謝内科学
23	11	21	木	2	代謝②	肥満症（メタボリック症候群）、やせ（神経性食思不振症）	鎌田 裕二	内分泌代謝内科学
24	11	26	火	3	代謝③	核酸代謝異常、糖尿病	市川 雷師	内分泌代謝内科学
25	11	26	火	4	代謝④	脂質異常症	小川 顕史	内分泌代謝内科学

**準備学習
(予習・復習)**

予習：講義要旨集を予習して、疾患の概念や基本的な病態を把握してから講義に臨む必要がある。その際に、対象疾患の病態については内分泌・代謝系Ⅰの講義要旨集の関連項目を復習しておくことによって、学習効率を高めることができる。

復習：講義要旨集、各自のノート、配布資料などにより、講義にて理解できた部分を再確認し、理解が不十分であった部分については参考図書などを用いて、自学自習しておく。病態の理解には内分泌・代謝系Ⅰで学習した、生理学、生化学、薬理学、病理学、解剖/発生学の知識が必要であることも多く、復習に際しては必ず内分泌・代謝系Ⅰも参照できるようにしておくことが必要である。

<p>参 考 図 書</p>	<p>参考図書</p> <p>『Williams Textbook of Endocrinology』(Saunders/Elsevier)</p> <p>『The Pituitary』(Academic Press)</p> <p>『Werner & Ingbar's The THYROID』(Lippincott Williams & Wilkins)</p> <p>『Text of Diabetes』(Wiley-Blackwell)</p> <p>『Joslin's Diabetes Mellitus』(Lippincott Williams & Wilkins)</p> <p>『内分泌代謝専門医ガイドブック』(診断と治療社)</p> <p>『糖尿病専門医研修ハンドブック』(診断と治療社)</p> <p>『一目でわかる内分泌学 第2版』B. Greenstein (メディカルサイエンスインターナショナルMEDSI)</p> <p>『最新内分泌検査マニュアル』東京女子医科大学内分泌疾患総合医療センター内科 (日本医事新報社)</p>
<p>到 達 目 標</p>	<p>各種ホルモンの過剰または不足がもたらす身体症状、血中ホルモン濃度に影響をあたえる因子や薬剤、ホルモン分泌刺激試験と抑制試験の原理と反応を把握したうえで、内分泌・代謝疾患の検査を概説でき、症候学を踏まえた診断学を十分に理解していること。</p> <p>各論で講義した内分泌・代謝疾患については、疾患概念、病因、病態、分類、治療を概説できること。</p> <p>糖尿病に関しては上記に加えて急性・慢性合併症を概説できること。</p>
<p>評 価 基 準</p>	<p>主に筆記試験によって評価する。</p>
<p>A V 資 料</p>	<p>1) 内分泌「目で見える解剖と生理」(医学映像教育センター)</p> <p>2) 内分泌・代謝検査「目で見える新しい臨床検査」(医学映像教育センター)</p>
<p>そ の 他 注 意 事 項</p>	<p>講義で扱った重要なポイントについて、講義要旨集を積極的に活用して理解を深めることが必要である。</p>

成長・発達系Ⅱ

科目責任者	石倉 健司
担当者	石倉 健司*・先崎 秀明*・中西 秀彦*・岩崎 俊之*・釦持 学*・中村 信也* 野々田 豊*・橋田 一輝*・高梨 学*・安藤 寿*・江波戸 孝輔*・今井 純好* 昆 信也*・石井 正浩(客員教授)*・高田 史男(兼)*・細田 のぞみ(非)* 柴山 啓子(非)*・藤武 義人*
授業の目的	第5学年から開始される小児科臨床実習に必要な基礎知識から診断学に至る知識を講義する。小児科学は非常に広い領域を含み、膨大な知識を要求される。小児科各分野の重要な疾患について、可能な限りコアカリキュラム・国家試験に沿った講義を行い、小児科学の特徴、特質を明確に習得させる。知識を暗記するのではなく、各疾患の病態生理について理論的に筋道をたてて理解することで、効果的な学習を心掛ける。
教育内容	幅広い知識を身に着けるため、各臓器の専門医から系統的に整理した内容とする。臨床に役立つ知識を優先して細やかに説明する。
教育方法	配布される資料と推薦教科書と参考図書に沿って講義を進める。

(34 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	10	4	金	3	児童虐待について	児童虐待についての一般知識、Sheken baby 症候群などについて	昆 信也	小児科学
2	10	4	金	4	小児科を学ぶにあたり	医療の心・小児心不全(1)	先崎 秀明	新世紀医療開発センター
3	10	7	月	3	小児感染症・予防接種	小児感染症の特徴と小児の予防接種	江波戸 孝輔	小児科学
4	10	7	月	4	糖尿病	小児において発症する糖尿病、その病態と治療	橋田 一輝	小児科学
5	10	8	火	1	消化器疾患	小児特有の消化器疾患を理解する	藤武 義人	小児科学
6	10	8	火	2	小児腎疾患(2)	慢性腎炎、ネフローゼ	中村 信也	小児科学
7	10	8	火	3	臨床遺伝学Ⅱ	先天異常・遺伝性疾患・遺伝医療	高田 史男	医療系研究科
8	10	8	火	4	新生児疾患(1)	未熟児・新生児の呼吸器、循環器系の発達と病態生理	中西 秀彦	小児科学
9	10	9	水	1	小児内分泌疾患(1)	成長、思春期	橋田 一輝	小児科学
10	10	9	水	2	小児腎疾患(1)小児輸液法	水とナトリウムの代謝、年令・体重による変化、Third Space とは	石倉 健司	小児科学
11	10	9	水	3	小児呼吸器疾患、気管支炎(1)	診断学総論、胸膜の疾患等	石倉 健司	小児科学
12	10	9	水	4	小児免疫	小児免疫の特徴	江波戸 孝輔	小児科学
13	10	10	木	1	川崎病	小児の重症疾患	石井 正浩	客員教授
14	10	10	木	2	小児内分泌疾患(2)	性分化、新生児マスキリーニングにおける内分泌疾患について	橋田 一輝	小児科学
15	10	10	木	3	小児の血液疾患	小児の血液の特徴と疾患各論	今井 純好	小児科学
16	10	11	金	1	小児循環器	小児心不全(2)	先崎 秀明	新世紀医療開発センター
17	10	11	金	2	新生児疾患(3)	新生児の免疫系の発達、感染症、黄疸等	釦持 学	小児科学

18	10	11	金	3	小児救急	小児救急の実際とピットホール	安藤 寿	小児科学
19	10	11	金	4	循環器画像診断	画像・診断・検査	高梨 学	小児科学
20	10	15	火	1	小児循環器疾患(1)	チアノーゼ性心疾患	先崎 秀明	新世紀医療 開発センター
21	10	15	火	2	小児神経疾患(2)	脳の基本的解剖・先天脳奇形・脳性麻痺	野々田 豊	小児科学
22	10	15	火	3	小児心電図	心電図の読み方	高梨 学	小児科学
23	10	15	火	4	新生児疾患(2)	未熟児・新生児の予後。神経系の発達と病態生理	中西 秀彦	新世紀医療 開発センター
24	10	16	水	1	小児アレルギー	小児アレルギー疾患の概念、診断、管理、治療について	江波戸 孝輔	小児科学
25	10	16	水	2	障害児教育・障害児医療	救命できたが障害が残った子どもの退院後の生活状況を知る	細田 のぞみ	非常勤講師
26	10	16	水	3	小児内分泌疾患・代謝異常症(3)	小児の甲状腺疾患について概説する	柴山 啓子	非常勤講師
27	10	17	木	1	先天性代謝異常症	先天代謝異常症の分類、診断、治療	橘田 一輝	小児科学
28	10	17	木	2	小児神経疾患(3)	急性脳症、脱髄疾患、神経変性症、神経・筋疾患、小児特有の神経疾患	野々田 豊	小児科学
29	10	17	木	3	小児悪性腫瘍性疾患	小児に特徴のある発生頻度の高い腫瘍性疾患各論	今井 純好	小児科学
30	10	17	木	4	小児呼吸器疾患、 気管支炎(2)	小児の主な上気道・下気道疾患	石倉 健司	小児科学
31	10	18	金	1	小児集中治療	小児集中治療	安藤 寿	小児科学
32	10	18	金	2	小児神経疾患(1)	てんかん診療を具体的に学ぶ	岩崎 俊之	小児科学
33	10	18	金	3	小児循環器疾患(2)	新生児危急的疾患	先崎 秀明	新世紀医療 開発センター
34	10	18	金	4	小児腎疾患(3)	尿路感染症、急性腎炎	昆 信也	小児科学

準備学習 (予習・復習)	<p>予習：小児科学についての興味を持つことが重要である。可能ならば、授業前に「成長・発達系Ⅰ」の講義内容を読み返しておく。</p> <p>復習：その日の講義録を復習。各自で学習ノートを作成する。自分で作った資料は、今後の臨床実習に役立つ。</p>
参考図書	<p>(1) 教科書 『標準小児科学』(医学書院) 『小児科学』(文光堂) 『STEP 小児科』(海馬書房) 『小児科学・新生児学テキスト』(診断と治療社)</p> <p>(2) 学生参考図書 『Nelson's Textbook of Pediatrics』(Saunders) 『Principle and Practice of Pediatrics』(Lippincott) 『EBM 小児疾患の治療』(中外医学社) など。</p> <p>(3) その他の参考図書 『小児科臨床ピクセス』(中山書房)</p>
到達目標	<p>臨床実習に入る前に小児科学の総論・各論の必要かつ十分な知識を修得する。とくに小児特有の疾患や小児保健(予防接種や新生児マスキング検査など)の内容をしっかり修得して欲しい。</p>

<p>評価基準</p>	<p>試験（記述式及び客観式）にて評価を行う（100%）。非常に幅広い範囲から出題されるので、講義でのポイントをしっかり理解する必要がある。合計点が基準に達しない場合は、不合格となり再試験を受けることになるので、注意して欲しい。</p>
<p>その他 注意事項</p>	<p>小児の発達、栄養の基礎知識、系別講義「成長・発達系Ⅰ」を予め目を通し、修得しておくことが望ましい。講義で不明な点は積極的に質問して欲しい。個人情報を含む講義内容もあるので、撮影・録音を希望する場合には、各担当者に許可を得て欲しい。</p>

生殖機能・妊娠分娩系Ⅱ

科目責任者	海野 信也・恩田 貴志
担当者	海野 信也*・恩田 貴志*・吉野 修*・岩瀬 春子*・望月 純子*・新井 正秀* 金井 雄二*・高田 恭臣*・早田 格*・天野 完 (客員教授)* 上坊 敏子 (客員教授)*・石川 雅一 (非)*・角田 新平 (非)*
授業の目的	産婦人科学は「女性の一生」を研究管理することを目標としており、生殖の生理・病理の解明に始まり、産婦人科に特有な各種疾病の診断、治療、予防を包括してプライマリーケアを実践している学問である。 その領域は生殖生理学、内分泌学、婦人科腫瘍学、産科学、周産期医学、女性医学など、広い領域に亘る。講義は産婦人科の特有な症候論、検査法や産婦人科学臨床実習で各人が体験するであろう疾患や症例を解説する。これらの内容を次年度の臨床実習までによく理解しておくことが最大の目的である。
到達目標	1) 女性生殖器の手術に必要な解剖を説明できる。 2) 年齢および月経周期に伴う女性の身体的変化について説明できる 3) 正常妊娠の生理、胎児・新生児の生理、正常分娩、産褥経過、新生児の生理について説明できる 4) 女性生殖器の腫瘍性疾患、性感染症の病態、診断、治療について説明できる 5) 子宮内膜症、月経異常、不妊症の病態、診断、治療について説明できる 6) 妊娠の異常、合併症妊娠、母子感染、分娩の異常、胎児の病理、出生前診断について説明できる 7) 産科救急、産科手術について説明できる 8) 母子保健について説明できる
教育内容	講義は、(1)性器の構成と機能、加齢、性分化、母子保健、(2)性周期、内分泌、不妊症、(3)炎症、性病、損傷、(4)良性腫瘍、(5)悪性腫瘍、(6)異常妊娠、(7)正常分娩、(8)異常分娩、(9)産褥、胎児、新生児などの領域について行われる。各講師は各領域の専門家であり、得意とするところをお願いしてある。
教育方法	基本的に、要旨集に沿って講義を進める。要旨集の補足のため、適宜プリントを配布する。

(35 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	11	18	月	3	母子保健	わが国の母子保健の現状について	海野 信也	産婦人科学
2	11	18	月	4	生殖内分泌の基礎	月経周期に伴う身体的変化	吉野 修	産婦人科学
3	11	19	火	1	正常分娩	フリードマン曲線と分娩の3要素について	望月 純子	産婦人科学
4	11	19	火	2	産褥・新生児	産褥経過と新生児の生理について	海野 信也	産婦人科学
5	11	20	水	1	月経異常(1)	月経周期における女性ホルモン分泌の変化	石川 雅一	非常勤講師
6	11	20	水	2	月経異常(2)	内分泌失調をきたす疾患と病態	石川 雅一	非常勤講師
7	11	21	木	3	卵巣腫瘍(1)	卵巣腫瘍の発生と組織分類	上坊 敏子	客員教授
8	11	22	金	1	産科救急	産科(周産期)救急システム、産科救急の特徴、産科救急疾患と救急処置	天野 完	客員教授
9	11	22	金	2	産科手術・産科麻酔	産科手術の実際、妊娠に伴う母体の生理的変化、産科麻酔法の実際(妊娠時の手術麻酔、帝王切開術の麻酔)と無痛分娩の方法	天野 完	客員教授
10	11	22	金	3	産婦人科解剖学	女性生殖器の構造、手術に必要な周囲の血管や靭帯の知識	岩瀬 春子	産婦人科学

11	11	25	月	3	不妊症(Ⅰ)	不妊症の診断	吉野 修	産婦人科学	
12	11	25	月	4	不妊症(Ⅱ)	不妊症の診断と治療	吉野 修	産婦人科学	
13	11	26	火	1	異常分娩(1)	鉗子・吸引分娩の適応と要約、骨盤位、双胎、TOLACについて	望月 純子	産婦人科学	
14	11	26	火	2	異常分娩(2)	帝王切開の適応と緊急度について	望月 純子	産婦人科学	
15	11	27	水	1	子宮腫瘍(Ⅱ)子宮体癌	子宮体癌の疫学、診断、治療	恩田 貴志	産婦人科学	
16	11	27	水	2	異常妊娠(1)	悪阻、流・早産、過期妊娠について	金井 雄二	産婦人科学	
17	11	27	水	3	子宮腫瘍(1)子宮頸癌	子宮頸がんについて	角田 新平	非常勤講師	
18	11	28	木	1	異常妊娠(2)	胎盤・羊水・胎児発育異常について解説する	金井 雄二	産婦人科学	
19	11	28	木	2	不妊症(Ⅲ)	不妊症の治療・子宮内膜症	吉野 修	産婦人科学	
20	11	28	木	3	卵巣腫瘍(Ⅱ)	卵巣癌：病理と進行期	上坊 敏子	客員教授	
21	11	29	金	1	胎児(1)	胎児生理の理解と胎児病理(胎児病、胎児発育異常、胎児機能不全)の診断	天野 完	客員教授	
22	11	29	金	2	胎児(2)	分娩時胎児機能不全の診断と対応	天野 完	客員教授	
23	11	29	金	3	子宮腫瘍(Ⅲ)筋腫、肉腫	子宮筋腫、肉腫について	新井 正秀	産婦人科学	
24	12	2	月	1	異常妊娠(3)	妊娠高血圧症候群について	海野 信也	産婦人科学	
25	12	2	月	2	異常妊娠(4)	合併症妊娠について	海野 信也	産婦人科学	
26	12	3	火	2	流産・子宮外妊娠・不育症	初期妊娠における異常	吉野 修	産婦人科学	
27	12	3	火	3	放射線治療	婦人科腫瘍の放射線治療	早田 格	放射線科学 (放射線腫瘍学)	
28	12	4	水	2	月経異常(3)	診断と治療	石川 雅一	非常勤講師	
29	12	4	水	3	思春期・更年期・老年期	エストロゲン分泌の変化がもたらす身体的変化	石川 雅一	非常勤講師	
30	12	5	木	1	産婦人科における臨床遺伝学	出生前診断染色体異常、X染色体不活性化を中心に解説	望月 純子	産婦人科学	
31	12	5	木	2	婦人科手術	婦人科領域の手術について	恩田 貴志	産婦人科学	
32	12	5	木	3	外陰・膣の疾患と性感染症	外陰・膣の疾患と性感染症について	新井 正秀	産婦人科学	
33	12	6	金	2	胎児(3)	胎児病治療(内科的治療、外科的治療)の実際と問題点	天野 完	客員教授	
34	12	6	金	3	絨毛性疾患	妊娠を契機として発症する絨毛性疾患について	高田 恭臣	産婦人科学	
35	12	6	金	4	卵巣腫瘍(Ⅲ)	卵巣癌：診断と治療	上坊 敏子	客員教授	
準備学習					生殖機能・妊娠分娩系Ⅰの内容を復習し、十分理解しておくこと。また、講義内容の理解を助けるため、授業前に要旨集の該当箇所を目を通しておくこと。講義終了後には、理解を深めるため、要旨集の該当箇所及び教科書の関連箇所を通読しておくこと。				

<p>参 考 図 書</p>	<p>(1) 教科書 『標準産科婦人科学』(第4版) 岡井 崇、綾部 琢哉 編集 (医学書院) 『プリンシプル産科婦人科学』(第3版) 1 婦人科編、2 産科編 武谷 雄二 他 監修 (メジカルビュー社)</p> <p>(2) 参考図書 『Williams Obstetrics』 25th Edition F. Cunningham et al. 『Clinical Gynecologic Oncology』 9th Edition P. J. Disaia, W. T. Creasman et al. 『Yen & Jaffe's Reproductive Endocrinology』 8th Edition J. F. Strauss III et al.</p>
<p>評 価 基 準</p>	<p>試験および授業態度により評価を行う。なお、欠席は減点の対象とする。</p>

腎・尿路系Ⅱ

科目責任者	岩村 正嗣
担当者	岩村 正嗣*、竹内 康雄*、坂本 尚登*、吉田 一成*、守屋 達美(兼)*、 守屋 利佳*、長場 泰*、松本 和将*、佐野 隆*、藤田 哲夫*、青山 東五*、 石井 大輔*、田畑 健一*、西 盛宏*、平山 貴博*
授業の目的	腎尿路系Ⅰで学んだ基礎医学の知識と基本的な病態の考え方を基に、腎実質疾患（糸球体、尿細管間質、腎内血管系）、尿路の炎症、腫瘍、感染症、先天異常等の代表的疾患の症候、病態、鑑別診断、治療を理解する。腎実質性疾患には原発性・続発性糸球体疾患、尿細管間質性疾患、血管・毛細血管障害、高血圧性腎障害、尿路疾患には尿路各部の良性・悪性腫瘍や感染症、結石症、先天奇形が含まれる。治療学では内科的治療（薬物、食事管理）、泌尿器科的手術、腎代替療法（透析療法、腎移植）を学び、臨床徴候から診断に至るまでの鑑別診断の過程を習得し、bedside learning へとつなげる。
教育内容	「腎・尿路系Ⅱ」では、代表的な腎・尿路疾患の症候、病態および診断・治療に要求される知識を習得する。一次性・二次性糸球体疾患、尿細管間質疾患、腎・尿路腫瘍、腎不全などの病態や機序を知る。治療は、内科的治療、泌尿器科手術、透析療法、腎移植などを学ぶ。さらに腎・尿路系Ⅰ、Ⅱで学んだ疾患について、臨床徴候から診断に至るまでの鑑別診断の過程を修得し、5年生の Bedside learning へとつなげる。
教育方法	講義要旨集、推薦教科書および追加のプリントを用いて講義をすすめる。

(25 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	9	5	木	3	慢性腎不全の病態と治療Ⅰ(高窒素血症、溢水、貧血、高血圧)	慢性腎不全の病態生理、保存期治療	長場 泰	腎臓内科学
2	9	5	木	4	慢性腎不全の病態と治療Ⅱ(Ca, P 代謝異常、MBD)	慢性腎不全合併症についてその病態と治療	長場 泰	腎臓内科学
3	9	6	金	3	急性/急速進行性腎炎症候群 (AGN、RPGN など)	糸球体腎炎の病態と診断方法と急性糸球体腎炎について	青山 東五	腎臓内科学
4	9	6	金	4	腎血管炎 (PAN、MPA、EGPA、GPA)	腎動脈から輸入細動脈に発症する血管炎について	青山 東五	腎臓内科学
5	9	9	月	1	慢性腎炎症候群 (IgA 腎炎、MPGN など)	IgA 腎炎、MPGN の原因、臨床像、病理組織所見、治療後について説明する	佐野 隆	腎臓内科学
6	9	9	月	2	急性・慢性尿細管間質性腎炎・薬剤性腎障害	急性・慢性尿細管間質性腎炎および急性・慢性腎盂腎炎の病因・症候・診断と治療を概説できるようにする	守屋 利佳	医学教育研究部門
7	9	11	水	1	腎毛細血管炎 (IgAV、クリオグロブリン血症性腎炎 APS)	糸球体（毛細血管網）に発症する血管炎について	青山 東五	腎臓内科学
8	9	11	水	2	小児泌尿器疾患	小児泌尿器科疾患の多くは先天奇形である。代表的な小児泌尿器科疾患それぞれの特徴、治療について講義する	西 盛宏	泌尿器科学
9	10	2	水	1	腎腫瘍	腎臓に発生する腫瘍、特に腎細胞癌に關する基礎、診断、治療に關して概説する	藤田 哲夫	泌尿器科学
10	10	23	水	3	ネフローゼ症候 (MCNS、FSGS、MN)	MCNS、FSGS、MN の病因、臨床像、病理所見、治療、予後について説明する	佐野 隆	腎臓内科学
11	10	23	水	4	腎・尿路の外傷/精巣腫瘍	腎、膀胱および尿道損傷などの尿路外傷および若年に発症する精巣腫瘍について講義する	田畑 健一	泌尿器科学
12	10	29	火	3	糖尿病性腎症と慢性腎臓病 (CKD)	糖尿病性腎症 (腎症) の概念、臨床的意義、診断、治療および CKD の概念、臨床的意義と腎症との関連について	守屋 達美	健康管理センター
13	10	29	火	4	膠原病と腎疾患 (Lupus 腎炎、PSS、SJS)	SLE、強皮症、シェーグレン症候群による腎疾患の臨床、病理所見、治療について説明する	佐野 隆	腎臓内科学
14	11	7	木	4	尿路閉塞性疾患 (良性疾患) とその治療	前立腺肥大症を中心に、病態、薬物療法的作用機序、手術療法の有用性などに対する理解を深める	平山 貴博	泌尿器科学
15	11	15	金	3	血液透析 (HD) と腹膜透析 (PD) 療法	腎代替療法における血液透析と腹膜透析の基礎と臨床	石井 大輔	泌尿器科学

16	11	15	金	4	尿路上皮癌	腎盂・尿管・膀胱腫瘍の病態、診断と治療、および尿路変向術について概説する	松本 和将	泌尿器科学
17	12	2	月	3	尿路結石症	腎臓、尿管、膀胱、尿道に発生する結石症の基礎、診断、治療に関して概説する	藤田 哲夫	泌尿器科学
18	12	2	月	4	腎移植の現状と未来	腎移植法の現状、手術方法、免疫抑制療法、合併症とその治療法、課題、移植療法の実用性について講義する	吉田 一成	新世紀医療開発センター
19	12	11	水	1	急性腎不全の鑑別診断と全身性疾患の腎障害 (HUS, 抗GBM抗体腎炎, コレステロール塞栓症など)	急性腎不全の考え方を復習し、関連疾患の中で特に抗GBM腎炎、コレステロール塞栓症、HUS (血栓性微小血管障害)、その他冠動脈疾患について基本病態を理解する	竹内 康雄	腎臓内科学
20	12	11	水	2	慢性腎炎症候群の鑑別診断 (遺伝性疾患, アミロイドーシス, 痛風腎, 多発性骨髄腫など)	慢性腎炎症候群の考え方を復習し、代謝性腎疾患、自己免疫性疾患関連の腎病変、遺伝性腎疾患を理解する	竹内 康雄	腎臓内科学
21	12	12	木	1	水・電解質バランス異常に対する治療 (輸液療法と薬物療法)	水・電解質バランス異常に対する治療について病態生理にもとづいて理解する	坂本 尚登	医療技術教育研究部門
22	12	12	木	2	診断へのアプローチ／内科的疾患	自覚症状、検査値異常、診察所見から如何にして腎疾患へ辿りつか、症例を見ながら考察する	竹内 康雄	腎臓内科学
23	12	16	月	4	腎・尿路の手術／内視鏡手術	近代泌尿器科の発展は、内視鏡の発展なくしては語れない、種々の内視鏡を用いた検査と手術の適応、特有の合併症について学ぶ	岩村 正嗣	泌尿器科学
24	12	19	木	3	前立腺癌	前立腺癌の疫学、診断、治療について、過去の医師国家試験問題で問われた内容も反映しながら解説する	田畑 健一	泌尿器科学
25	12	19	木	4	診断へのアプローチ／泌尿器科	泌尿器疾患特有の主訴、現病歴、検査所見を示し、診断にいたるアプローチを復習する。余った時間を利用して質疑応答を行う	岩村 正嗣	泌尿器科学

準備学習 (予習・復習)	予習：腎・尿路系講義要旨集の通読。 復習：講義内容や配布プリントの復習。
参考図書	(1) 教科書 講義要旨集 (2) 学生参考図書 『議事録 腎臓学』木村健二郎、富野康日己 編 (メジカルビュー社) 『標準泌尿器科学』北川龍一 監修 (医学書院) 『Comprehensive Clinical Nephrology Fourth Edition (Elsevier Saunders) 『Smith's General Urology』Tanagho & McAnich (Lange Medical Book) (3) その他の参考図書
到達目標	1. 腎の生体恒常性維持機構 (水、ナトリウム、カリウム、カルシウム、リン及び酸塩基平衡の調節)を確認し、その障害を説明できる。 2. 急性・慢性腎機能障害の鑑別診断、進行機序と腎機能に応じた治療指針を説明できる。 3. 原発性、続発性糸球体疾患 (遺伝性疾患を含む)の鑑別診断、疾患各論と治療方針を概説できる。 4. 尿細管間質性疾患 (遺伝性、先天性疾患を含む)の鑑別診断、疾患各論と治療方針を概説できる。 5. 尿路系の先天性疾患、奇形と機能異常について説明できる。 6. 高血圧による腎障害の機序と病態を説明できる。 7. 社会医学としての「慢性腎臓病」の病態の概要、病診連携療法の意義を説明できる。 8. 腎代替療法の内容を学ぶ 9. 代表的な腎・尿路腫瘍の病態、診断、治療を説明できる。 10. 尿路外傷の受傷機転、病態、診断、治療を説明できる。 11. 尿路結石の成因と予防法、並びに病態、診断、治療を説明できる。 12. 尿路閉塞性疾患の診断と治療を説明できる。 13. 泌尿器内視鏡検査、内視鏡手術について説明できる。 14. 腎移植に関わる法的、倫理的、社会的問題点について説明できる。
評価基準	筆記試験 (90%) および受講態度 (10%) による。
AV資料	尿の異常 CAPD マニュアル 尿路結石 TUR-Pのコツとイメージ ~絆~ある腎移植の記録
その他注意事項	「腎・尿路系 I」「腫瘍系」のテキストを適時参照すること。

法医学系

責 任 者	佐藤 文子
担 当 者	佐藤 文子*・入江 渉*・村上 千香子*・佐々木 千寿子*・藤田 眞幸(非)* 網干 博文(非)*・大澤 資樹(非)*
授業の目的	法医学は社会医学の一分野として広い範囲に及ぶ活動をおこなっている。学生に対しては、臨床医にとって必要な法医学の基礎知識・基礎的技術を習得させることを教育の目標とする。臨床医を志す者にとって、外傷、交通事故損傷、急性薬物中毒、内因性急死、CPAOAなどの異状死体については、診療と共に、法医学的考え方が必要であり、これらの社会医学的意義を学習する。また、医療事故、医事紛争などを含む医学と法律に関する問題について学習する。歯科所見や、骨組織などから、性別・年齢を推定する個人識別法に加え、DNA鑑定法についても学習する。
到達目標	1. 死体現象について理解し、説明できる。 2. 異状死体、法医解剖及び死体検案に関係する法律について理解し、説明できる。 3. 内因性急死、創傷、交通事故損傷、薬物中毒、窒息、異常環境による死について理解し、説明できる。 4. 白骨、歯科所見などの硬組織による年齢・性別・人種の推定や、個人識別の方法、DNA鑑定について理解し、説明できる。 5. 医師として知っておくべき法律について理解し、説明できる。 6. 法医実務における物体検査の意義を理解し、説明できる。 7. 架空の事例概要をもとに、死亡診断書、死体検案書などの医学的証明書の書き方を演習し、死因や死亡推定時刻の判定の仕方を理解し、説明できる。 8. 教養と良識ある社会の成員・形成者として行動することができる。
教育方法	(1) 講義 法医学とは何か？何を目的とし、どのようなことを行っているのかを25コマの講義・演習で明らかにしていく。具体的には法医学が扱う異状死体にみられる様々な所見(死体現象、創傷、交通事故、中毒、突然死をもたらす内因性疾患など)について講義を行い理解を深めるとともに、身元不明の異状死体も多く扱う性質上、DNA鑑定についても解説を行う。その他白骨や歯牙などの硬組織による年齢・性別の推定や個人識別について、また近年問題となっている児童虐待などについても併せて講義を行う。さらに医師として知っておくべき法律についても解説する。 (2) 演習 死体検案書演習：架空の事例概要をもとに死亡診断書・死体検案書などの医学的証明書の書き方について演習する。 「法医学演習」の講義では、小テストを行う予定である。 (3) 異状死体の検案・解剖の体験学習(希望者)

(25 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	5	20	月	3	法医学系総論	法医学と社会との関わりについて時事的な話題を取り入れながら解説する	佐藤 文子	法医学
2	5	20	月	4	異状死体	法医学で扱う異状死体とはどういうものか、またどのような問題が内在しているのか解説する	佐藤 文子	法医学
3	5	23	木	1	死体現象	早期・晩期死体現象について説明し、そこからどのように死後経過時間を推定するのか解説する	入江 渉	法医学
4	5	23	木	2	死後経過時間の推定	早期・晩期死体現象について説明し、そこからどのように死後経過時間を推定するのか解説する	入江 渉	法医学
5	5	29	水	3	内因性急死Ⅰ	突然死の原因となる内因性疾患について実例を交え解説する	佐藤 文子	法医学
6	5	29	水	4	内因性急死Ⅱ	突然死の原因となる内因性疾患、特に心臓性突然死について解説する	佐藤 文子	法医学

7	6	5	水	3	創傷総論	様々な創傷について概説する	佐藤 文子	法医学
8	6	5	水	4	創傷各論	銃器・鈍器などによる損傷について実例を交え解説する	佐藤 文子	法医学
9	6	7	金	3	温度異常・電気などによる障害	異常環境下での死亡事例（火災、感電、凍死など）について実例を交え解説する	村上 千香子	法医学
10	6	7	金	4	硬組織に関する法医学的事項	白骨や歯牙などの硬組織による年齢・性別の推定、個人識別の方法などについて解説する	網干 博文	非常勤講師
11	6	18	火	3	DNA 鑑定 I	DNA 鑑定について概説する	大澤 資樹	非常勤講師
12	6	18	火	4	DNA 鑑定II	DNAとは何か、その特徴および個人識別などへの応用について解説する	村上 千香子	法医学
13	6	19	水	1	創傷各論（交通外傷）	交通外傷について実例を交え解説する	佐藤 文子	法医学
14	6	19	水	2	窒息総論・各論	窒息とは何か、その定義や種類などについて実例を交え概説する	佐藤 文子	法医学
15	6	21	金	3	中毒総論	中毒とは何か、その定義や種類、社会動向などについて概説する	佐々木 千寿子	法医学
16	6	21	金	4	監察医制度	現行の監察医制度および関連事項について解説する	林 紀乃	東京都監察医務院
17	6	24	月	1	児童虐待	児童虐待にどのようなものがあるのか実例を交え解説する	佐藤 文子	法医学
18	6	24	月	2	法医学演習	これまでの講義を踏まえ、知識の確認のための問題演習およびその解説を行う	佐藤 文子	法医学
19	6	25	火	3	中毒各論	法医学で特に問題となる中毒物質などについて実例を交え解説する	佐々木 千寿子	法医学
20	6	25	火	4	死後画像診断	死後画像診断について、その有用性および限界について解説する	菊地 洋介	東京都監察医務院
21	6	26	水	3	医療関連死	医療関連死およびその関連事項について法医学的視点で解説する	藤田 眞幸	非常勤講師
22	6	26	水	4	死体検案書	死亡診断書・死体検案書の書き方について、記入マニュアルをもとに解説する	入江 渉	法医学
23	6	28	金	3	物体検査	様々な生体試料を用いた検査法やその意義などについて解説する	村上 千香子	法医学
24	7	2	火	3	死体検案書演習 I	架空の事例をもとに死亡診断書・死体検案書を作成する	入江 渉	法医学
25	7	2	火	4	死体検案書演習 II	架空の事例をもとに死亡診断書・死体検案書を作成する	入江 渉	法医学
準備学習 (予習・復習)	予習：受講前に、それぞれのテーマについて参考図書を読み、予習しておくこと。 復習：講義・演習内容で大事なポイントについてノート等にまとめる。その際、理解できていない部分、疑問点などについても書き出して調べる。							
参考図書	『標準法医学』池田典昭、鈴木廣一 編（医学書院） 『法医学』第3版 福島弘文 編（南山堂） 『新訂 死体の視かた』渡辺博司、齋藤一之 著（東京法令出版株式会社）							
評価基準	小テスト・試験成績による。							
その他 注意事項	講義・演習は欠席・遅刻をしないこと。							

予防医学系

科目責任者	堤 明純・堀口 兵剛
教育担当	衛生学：堀口 兵剛*・岡田 充史・星 佳芳（非）・宮島 江里子・大森 由紀 公衆衛生学：堤 明純*・井上 彰臣*・江口 尚*・可知 悠子・太田 寛 川島 正敏 医療管理学：渋谷 明隆*
担当者	相澤 好治（名誉教授）・桐生 迪介（神奈川県医師会）・和田 耕治（国際医療福祉大学） 原田 久（メンタルホスピタルかまくら山）・新津谷 真人（新津谷クリニック） 吉田 綾（相模原市保健所）・桑島 昭文（国立病院機構）・井上 和男（帝京大学）* 福島 昭治（客員教授）・平野 靖史郎（国立環境研究所）・木村 真三（独協医科大学）
授業の目的	予防医学系では、学生に、社会と健康・疾病との関係、個体及び集団をとりまく環境諸要因の変化による個人の健康への影響について理解させ、それをもって、個人の行動及び社会や環境への働きかけによって、健康を保持増進させる方策を概説できるようにすることを教育目標とする。そのために、物理・化学的要因による疾患、中毒と環境要因によって生じる疾患の病態生理、保健、医療、福祉と介護の制度、保健統計の意義と現状、疫学とその応用、根拠に基づく医療（EBM）、国内外で発生した主な公害・環境汚染の歴史と現状、産業保健の意義・制度・方法を学び、産業医の役割、地域医療のあり方と現状及び課題と地域医療に貢献するための資質、生活習慣に関連した疾病の種類、病態と予防、国際的な健康問題への取組についての講義と実習を行う。
教育内容	(1)講義および(2)実習を通して、予防医学全般について学ぶことができるようにする。 (1) 講義では、予防医学を多方面からとらえることができるよう構成している： 方法論：予防医学・健康増進、疫学、保健衛生統計、毒性学 制度・法体系：保健医療福祉制度、医療経済、医療体系（僻地、救急医療） 集団別アプローチ：地域保健、産業保健、学校保健、国際保健 属性別アプローチ：母子保健、成人保健、高齢者保健 課題別アプローチ：環境保健、食品衛生、精神保健、栄養、社会福祉、感染症、健康危機管理（災害） (2) 実習 3 グループに分かれ①環境評価として環境測定器具の使用法（化学的・物理的要因の測定）を、②工場見学により産業保健の実際を、③環境・衛生施設見学（浄水場の見学）として環境保健の実際について学ぶ。
教育方法	講義は、多人数講義形式で、予防医学系講義要旨集をベースに、追加資料、パワーポイントなどを使用して行う。 実習は、全体が3グループに分かれて行うが、①環境測定・評価、②工場見学、③環境・衛生施設見学の実習一項目につき2コマをあてて行う。

(34 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	5	21	火	4	予防医学概論	衛生学と公衆衛生学の特徴を述べ、予防医学の考え方について解説する	堤 明純	公衆衛生学
2	5	24	金	1	衛生学・環境保健概論	衛生学・環境保健の考え方、毒性学などについて概説する	堀口 兵剛	衛生学
3	5	24	金	2	環境保健 1	我が国の環境汚染と対策について解説する	堀口 兵剛	衛生学
4	5	28	火	3	保健統計	重要な健康指標となる人口動態統計・人口静態統計について解説する	可知 悠子	公衆衛生学
5	5	28	火	4	患者の人権と医師の義務 【特別講義】	医師法の趣旨に触れながら、医師が理解しておくべき倫理的内容について解説する	桐生 迪介	神奈川県医師会
6	5	29	水	1	疫学総論 1	疫学の定義と目的、代表的な指標について解説する	井上 彰臣	公衆衛生学

7	5	29	水	2	疫学総論 2	疫学研究の方法論について解説する	井上 彰臣	公衆衛生学
8	5	30	木	1	社会・環境と健康	文化的社会的文脈の中で人の心と社会の仕組みを理解するための基礎的な知識と考え方について解説する。 障害者保健について、医師として知っておくべき各種データ、法律について概説する	江口 尚	公衆衛生学
9	5	30	木	2	母子保健	母子保健指標、先天異常を含む周産期の健康障害、小児医療費公費負担制度について解説する	太田 寛	公衆衛生学
10	5	30	木	3	地域医療	地域医療の実際と、地域における研究について紹介する	井上 和男	帝京大学
11	5	30	木	4	衛生行政（地方）	保健所の機能を含む地域医療行政について解説する	吉田 綾	相模原市保健所
12	6	3	月	4	医療提供体制と医療経済	国民医療費の現状と、健康保険の仕組みについて解説する	渋谷 明隆	医療管理学
13	6	4	火	3	環境保健Ⅱ／実習説明	近年の環境問題・地球環境問題等について解説する。実習内容について説明する	堀口 兵剛	衛生学
14	6	4	火	4	国際保健	国際的な健康問題を解決するための協力体制やその実際について解説する	和田 耕治	国際医療福祉大学
15	6	6	木	3	ヒ素汚染とがん	毒性学の概論、ヒ素汚染とがんについて解説する	福島 昭治	客員教授
16	6	6	木	4	福島第一原発事故とチェルノブイリ	原発事故の社会的影響の側面から医学の関わりを考える	木村 真三	獨協医科大学
17	6	10	月	3	大気環境と健康影響	大気汚染物質、PM2.5の呼吸器影響などについて解説する	平野 靖史郎	国立環境研究所
18	6	10	月	4	産業保健概論【特別講義】	産業保健の歴史、意義、考え方などについて概説する	相澤 好治	名誉教授
19	6	11	火	1	禁煙	喫煙の害について解説し、禁煙指導の実際について紹介する	原田 久	はらだメンタルクリニック
20	6	11	火	2	産業保健Ⅰ	産業保健に関する法規・行政、じん肺、有害化学物質による健康障害について解説する	堀口 兵剛	衛生学
21	6	13	木	3	実習【M-402 他】	グループに分かれて①環境測定・評価②工場見学 ③環境・衛生施設見学を行う	堤 明純・他※	衛生学・公衆衛生学
22	6	13	木	4	実習【M-402 他】			
23	6	17	月	1	EBM	疫学研究成果（エビデンス）の応用について解説する	堤 明純	公衆衛生学
24	6	17	月	2	環境保健Ⅲ	四大公害病について解説する	堀口 兵剛	衛生学
25	6	17	月	3	衛生行政	国民の健康を衛る厚生労働省の機能と医系技官の役割について解説する	桑島 昭文	国立病院機構
26	6	17	月	4	産業保健Ⅱ	物理的因子による健康障害、作業態様による健康障害について解説する	大森 由紀	衛生学
27	6	19	水	3	環境保健Ⅳ／国民栄養	社会的環境（上下水道や廃棄物、室内環境等）、国民栄養や睡眠について解説する	武藤 剛	衛生学
28	6	19	水	4	精神保健／自殺対策	わが国の精神保健の現状と課題点。取られている対策及び職場のメンタルヘルスについて解説する。自殺対策の現状と課題を提示し、地域や職場の自殺対策における医師の役割とスキルを概説する	井上 彰臣	公衆衛生学
29	6	20	木	3	感染症・食中毒・健康危機管理／学校保健	重要な感染症、食中毒の現状を示し、健康危機管理について解説する。学校保健について、医師として知っておくべき各種データ、法律について解説する	江口 尚	公衆衛生学
30	6	20	木	4	成人保健と高齢者保健	NCD (Non Communicable Diseases) とその対策、ヘルスプロモーション方針について解説する。また、高齢者保健の現状と課題点、取られている対策について解説する	可知 悠子	公衆衛生学
31	7	1	月	3	実習【M-402 他】	グループに分かれて①環境測定・評価②工場見学 ③環境・衛生施設見学を行う	堤 明純・他※	衛生学・公衆衛生学
32	7	1	月	4	実習【M-402 他】			
33	7	11	木	3	実習【M-402 他】	グループに分かれて①環境測定・評価 ②工場見学 ③環境・衛生施設見学を行う	堤 明純・他※	衛生学・公衆衛生学
34	7	11	木	4	実習【M-402 他】			

※堤 明純・堀口兵剛・岡田充史・宮島江里子・江口 尚・井上彰臣・可知悠子・武藤 剛・川島正敏・大森由紀・新津谷真人

準備学習 (予習・復習)	予習：配布する予防医学系講義要旨集、予防医学実習書に事前に目を通し予習すること。 復習：各自で学習ノートを作成する。とくに実習では学習記録をレポートに反映させるようにする。
参考図書	(1) 準教科書 『はじめて学ぶやさしい疫学』（改訂第3版）日本疫学会 標準テキスト（2018/9/7） 『NEW 予防医学・公衆衛生学』（改訂第4版）岸玲子監修 南江堂 2018 『国民衛生の動向 2018/2019』（勤厚生労働統計協会） (2) 学生参考図書 『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』（環境省） 『産業保健マニュアル』（南山堂）
到達目標	1. 予防医学、衛生学、公衆衛生学の概念、考え方、実践方法を説明できる。 2. 疫学の定義、目的、方法とその応用（EBM）を説明できる。 3. 保健統計の指標及びその動向を説明できる。 4. わが国における生活習慣病対策とヘルスプロモーション方策について説明できる。 5. わが国における母子保健、学校保健、精神保健（自殺対策を含む）、高齢者保健、障害者保健の体制、現状、問題点、対策について説明できる。 6. わが国における感染症・食中毒の現状及びそれらに関する健康危機管理について説明できる。 7. 国と地方の衛生行政の概要と役割について説明できる。 8. 地域医療のあり方及び実践方法について説明できる。 9. わが国の国民医療費の現状と、健康保険の仕組みについて説明できる。 10. 医師法及び医療法に関連する医師の義務と患者の人権について説明できる。 11. 毒性学の概念及びその方法について説明できる。 12. 一般環境と健康との関連及び環境行政について説明できる。 13. 公害と環境汚染の発生機序及び健康影響について説明できる。 14. わが国の産業保健体制と産業医の職務及び職場における有害因子の健康影響について説明できる。 15. 国際的な健康問題の現状とその取り組みについて説明できる。
評価基準	受講態度、実習のレポートを評点化し、試験と併せて総合的に評価を行う。なお、実習の欠席は減点する。
その他 注意事項	講義・実習は「守礼敬人」教育の精神に基づいて行う。 レポート作成にあたっては剽窃行為（他人の作品や論文、ホームページの記事等を盗んで自分のものとして記述すること）は厳に慎むこと。

画像・検査診断系

科目責任者	井上 優介
担当者	<p>【放射線科学】 井上 優介*・原 敏将*・原留 弘樹*・松永 敬二*・石山 博條*</p> <p>【臨床検査診断学】 狩野 有作*・大谷 慎一*・高山 陽子*・高山 吉永</p>
授業の目的	<p>【放射線科学】 放射線を使用すると、体外から体を傷つけずに臓器の形態や機能を観察して、様々な疾患を診断し、病態を明らかにすることができる。画像診断は全身のすべての臓器を対象とし、機器、情報技術、薬剤の進歩とともに発展を続けており、臨床医療において必要欠くべからざるものになっている。画像技術の治療応用であるインターベンショナルラジオロジー（IVR）は低侵襲の治療を実現し、様々な疾患の治療に利用されている。放射線治療は、外科手術や化学療法とともにがん集学治療の柱として役割を増している。画像上で定めた標的に集中して放射線照射することで、高い治療効果が得られる。 放射線を利用した診断・治療は国民の健康に多大な恩恵をもたらしているが、一方で医療被ばくが増大しており、特にCTによる発がんリスク増加が懸念されている。医師は放射線利用の負の側面も理解し、リスク・ベネフィットを踏まえて放射線利用の適否を判断し、その判断について患者や公衆の理解を得られなくてはならない。 放射線科学はすべての臨床医にとって必須の医療・医学分野であり、本科目では放射線の医療における適正利用に必要な基盤の形成を目指す。今後登場する新技術をも自ら活用できるようにするため、本質を踏まえた実践的理解をはかる。</p> <p>【臨床検査診断学】 臨床検査は基本的診療能力の基礎であり、疾患の診断、病態の把握、治療効果および予後の判定の指標として診療業務に必要不可欠である。なお、臨床検査は一般（尿、糞便）検査、血液検査、生化学検査、免疫検査、微生物検査、遺伝子・染色体検査、輸血検査などの検体検査と脳波検査、神経・筋電図検査、聴力・平衡機能検査、呼吸機能検査、循環機能検査、超音波（腹部、心臓、血管、表在など）検査などの生理検査に大別される。臨床検査の種類は膨大で年々増加しており、それらを適正に使用することが非常に重要となる。本科目では、臨床検査の基礎知識および臨床的意義、ならびに効率的な検査診断法について理解する。</p>
教育内容	<p>【放射線科学】 各種画像診断検査の原理や特徴を学ぶ。 臓器領域毎に、画像診断の基礎となる断層解剖を学習する。代表的な疾患について、適応となる画像診断検査、画像所見、臨床的な位置づけを学ぶ。 様々な核医学検査の方法、原理、臨床適応、検査所見、診療における役割を学習する。 IVRについて、方法の基礎、各種治療法の臨床適応と意義を学習する。 がん集学的治療における放射線治療の位置づけを学び、放射線治療における画像利用の実際を理解する。 放射線影響の基礎を理解し、放射線の適正使用の考え方を学ぶ。</p> <p>【臨床検査診断学】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 一般検査では採尿法、尿定性検査、尿沈渣、便潜血反応（化学的検出法、免疫学的検出法）について講義する。輸血検査では血液型の生い立ち、血液型検査、交差適合試験、不規則抗体スクリーニング、ウインドウピリオドなどの輸血医療に必要な内容について講義する。 (2) 血液検査では貧血および血小板減少症の検査診断法、血小板・凝固・線溶系検査の臨床的意義について講義する。血液・骨髄像では血液細胞成熟過程の正常像および代表的血液疾患の骨髄像について講義する。 (3) 生化学検査では生化学検査へ影響を与える因子、抗凝固剤の種類、検体保存法などの基礎知識、基本的生化学検査項目の臨床的意義について講義する。 (4) 感染症検査、免疫血清検査では、これらの検査を通じて臨床症状、検査所見、原因病原体の検出などから診断に至る経緯について講義する。 (5) 遺伝子検査では各種遺伝子検査の基礎と応用、将来性と問題点について講義する。 (6) 超音波検査では超音波検査の原理と基本的操作法、各種疾患における超音波検査所見について講義する。

教育方法	プリントを事前に配布し、これに沿って講義を進める。 配布されたプリントは通読し、講義の際に忘れずに持参すること。
-------------	---

(16 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	9	3	火	1	放射線診断学概論	各種放射線画像検査の原理と特性	井上 優介	放射線科学 (画像診断学)
2	9	3	火	2	胸部画像診断	胸部画像診断の検査方法・画像解剖・代表的疾患の画像診断	原 敏将	放射線科学 (画像診断学)
3	9	4	水	3	腹骨盤部画像診断 (I)	腹骨盤部画像診断に用いる検査方法・断面解剖・肝胆膵疾患の画像診断	原留 弘樹	新世紀医療 開発センター
4	9	4	水	4	腹骨盤部画像診断 (II)	泌尿器・婦人科臓器・腸管の画像診断	原留 弘樹	新世紀医療 開発センター
5	9	25	水	3	超音波検査 (腹部、頸動脈、心臓)	超音波検査の基礎知識および臨床的意義	狩野 有作	臨床検査診断学
6	9	25	水	4	IVR	IVRの基礎、方法および臨床適応	松永 敬二	放射線科学 (画像診断学)
7	10	22	火	1	神経画像診断 (I)	神経画像診断に用いる検査方法・画像解剖・外傷と脳血管障害の画像診断	原 敏将	放射線科学 (画像診断学)
8	10	22	火	2	神経画像診断 (II)	脳腫瘍・中枢神経感染症・脱髄疾患等の画像診断	原 敏将	放射線科学 (画像診断学)
9	10	24	木	3	核医学	核医学の基礎・各種核医学検査の概要	井上 優介	放射線科学 (画像診断学)
10	10	24	木	4	血液検査、血液・骨髄像	血液検査、血液・骨髄像の基礎知識および臨床的意義	狩野 有作	臨床検査診断学
11	10	31	木	1	放射線治療	放射線治療の方法、適応とがん集学治療における役割	石山 博條	放射線科学 (放射線腫瘍学)
12	10	31	木	2	放射線安全	放射線影響の基礎と医療における放射線安全	井上 優介	放射線科学 (画像診断学)
13	11	12	火	1	生化学検査	生化学検査の基礎知識および臨床的意義	大谷 慎一	輸血・細胞移植学
14	11	12	火	2	一般検査、輸血検査	一般検査、輸血検査の基礎知識および臨床的意義	大谷 慎一	輸血・細胞移植学
15	11	19	火	3	遺伝子検査	遺伝子検査の基本手技と臨床応用例および最新の検査法の将来性と問題点	高山 吉永	分子遺伝学
16	11	19	火	4	感染症検査、免疫血清検査	感染症検査、免疫血清検査の基礎知識および臨床的意義	高山 陽子	新世紀医療 開発センター

準備学習 (予習・復習)	<p>予習) プリントを事前に配布するので、講義前に目を通しておくこと。 また、以下の講義内容を配布資料・ノートで復習する。 第2学年 基礎放射線科学 第3学年 腫瘍系「放射線治療総論」 第3学年 腫瘍系「新しいがんの診断 (含腫瘍マーカー、遺伝子診断)」</p> <p>復習) 講義資料・ノートを当日中に復習する。</p>
-------------------------	--

<p style="text-align: center;">参 考 図 書</p>	<p>【放射線科学】</p> <p>(1) 教科書 「画像診断コンパクトナビ」百島祐貴（医学教育出版社）</p> <p>(2) 学生参考図書 「標準放射線医学」第7版（医学書院） 「医学生・研修医のための 画像診断リファレンス」山下康行（医学書院） 「核医学ノート」久保敦司、木下文雄（金原出版） 「やさしくわかる放射線治療学」公益社団法人放射線腫瘍学会監修（秀潤社）</p> <p>(3) その他の参考図書</p> <p>【臨床検査診断学】</p> <p>(1) 学生参考書 『臨床に役立つ検査値の読み方・考え方』河野均也、西崎 統（総合医学社） 『臨床検査データブック』高久史磨 編（医学書院） 『臨床検査ガイド』和田 功、大久保昭行、永田直一、矢崎義雄 編（文光堂） 『腹部エコー診断メモ』佐藤通洋 編（中外医学社）</p>
<p style="text-align: center;">到 達 目 標</p>	<p>【放射線科学】</p> <p>(1) エックス線検査、CT、MRI、核医学検査の原理を理解し、それぞれの特性を説明できる。</p> <p>(2) 画像解剖を理解し、主要な臓器・構造を画像上で同定できる。</p> <p>(3) 全身の代表的な疾患の画像所見を概説できる。</p> <p>(4) 臓器領域毎に各種画像診断検査の位置づけと臨床適応を概説できる。</p> <p>(5) 代表的なIVRの技法と適応を概説できる。</p> <p>(6) 放射線治療の方法を、画像利用を踏まえて概説できる。</p> <p>(7) 放射線治療の適応とがん集学治療における役割を概説できる。</p> <p>(8) 画像診断検査の安全管理に関わる基礎的事項を説明できる。</p> <p>(9) 放射線障害と放射線防護の基礎を概説できる。</p> <p>【臨床検査診断学】</p> <p>(1) 臨床検査データの適切な読み方および臨床検査の適正使用を説明できる。</p> <p>(2) 採尿法、尿定性検査、尿沈渣、便潜血反応（化学的検出法、免疫学的検出法）を説明できる。</p> <p>(3) 血液型の生い立ち、血液型検査、交差適合試験、不規則抗体スクリーニング、ウインドウピリオドなどの輸血医療に必要な内容を説明できる。</p> <p>(4) 貧血および血小板減少症の検査診断法、血小板・凝固・線溶系検査の臨床的意義を説明できる。</p> <p>(5) 血液細胞成熟過程の正常像および代表的血液疾患の骨髓像を説明できる。</p> <p>(6) 生化学検査へ影響を与える因子、生化学検査に用いる抗凝固剤の種類や検体保存法などの基礎知識、基本的生化学検査項目の臨床的意義を説明できる。</p> <p>(7) 感染症検査、免疫血清検査を通じて臨床症状、検査所見、原因病原体の検出などから診断に至る経緯を説明できる。</p> <p>(8) 各種遺伝子検査の基礎と応用、将来性と問題点を説明できる。</p> <p>(9) 超音波検査の原理と基本的操作法、各種疾患における超音波検査所見を説明できる。</p>
<p style="text-align: center;">評 価 基 準</p>	<p>筆記試験による（放射線科学約65%、臨床検査診断学約35%）。なお、欠席は減点対象とする。</p>

精神系

科目責任者	宮岡 等
担当者	宮岡 等*・齋藤 正範*・高橋 恵*・宮地 英雄*・新井 久稔*・井上 勝夫* 澤山 透*・大石 智*・天保 英明*・廣岡 孝陽*・朝倉 崇文* 生地 新(兼)*・田ヶ谷 浩邦(兼)*・鈴木 映二(客員教授)*
授業の目的	精神に関連する諸問題に対し医学的に分析し対応できる医師の育成
教育内容	1) 最初の講義で症例を呈示する。学生は2症例ずつを担当し、診断や治療に関するレポートを作成する。講義最終日に、担当した症例について有志あるいは指名されたものがプレゼンテーションを行う。 2) 主な精神疾患について、概念、疫学、病因、症状、病型、診断、鑑別診断、治療、経過、予後などを講義する。 3) ライフサイクルから見た精神的問題(小児・児童精神医学や老年精神医学など)、司法など社会との関わり、基礎医学や一般身体科疾患との関係、心身医学について講義する。
教育方法	精神医学総論・各論の講義を受講しながら、系統講義の最初に与えられた症例につき医学的に分析し、具体的な対応をまとめて最後にプレゼンテーションする。

(24 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	9	12	木	3	序説/精神障害の分類・診断・治療の考え方/医療倫理/IC、個人情報	精神医学の歴史や精神医学の基本的な考え方、医療倫理/IC、個人情報に関する重要な問題について説明する	宮岡 等	精神科学
2	9	12	木	4	精神症候学(1)/発表症例呈示	精神と行動に関する異常の分類、個々の異常についての概説と、発表のための症例呈示を行う	齋藤 正範	精神科学
3	9	13	金	3	精神症候学(2)	精神と行動の異常の把握の仕方、精神医学に固有の診察法について講じる	齋藤 正範	精神科学
4	9	13	金	4	てんかん	てんかんの定義、分類、診断、治療、予後と、特殊な状況への対処について講じる	齋藤 正範	精神科学
5	9	17	火	3	F2：統合失調症(1)	統合失調症の歴史的背景、疫学や発症要因に関する最近の知見、診断等について講じる	大石 智	精神科学
6	9	17	火	4	精神科薬物療法 《特別講義》	向精神薬の種類、作用機序、処方レジメン、副作用、薬物相互作用などについて講じる	鈴木 映二	客員教授
7	9	18	水	1	F2：統合失調症(2)	統合失調症の治療、転帰等について講じる。ノーマライゼーション、精神障害者社会復帰施設	廣岡 孝陽	精神科学
8	9	18	水	2	精神科救急/自殺	精神科救急における初療の基礎、自傷行為や自殺企図への理解を深め援助の基本を習得する	大石 智	精神科学
9	9	19	木	1	F3：気分障害(1)	うつ病を中心に概念、診断、治療、疫学等に関し講じる	天保 英明	精神科学
10	9	19	木	2	F3：気分障害(2)	躁状態や躁うつ病についての診断、治療等に関し講じる	天保 英明	精神科学
11	9	20	金	3	F7-9：精神遅滞/ 児童・思春期の精神障害	各論として児童・思春期の精神障害(精神遅滞、学習障害、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、行為障害、選択性緘黙、チック障害、児童虐待)を講義します	井上 勝夫	精神科学
12	9	20	金	4	F1：精神作用物質による 精神障害(薬物)	薬物依存について定義等の基本事項と、麻薬、ベンゾジアゼピン、バルビツレート、コカイン、アンフェタミン、大麻、幻覚剤、有機溶剤等への依存について講じる	宮岡 等(朝倉)	精神科学
13	9	24	火	1	F4：神経症/ストレス関連障害/身体表現性障害/リエゾン精神医学	神経症、ストレス関連障害、身体表現性障害、神経症関連障害等の診断、治療について、また精神科内における悩みについて講義する。身体表現性障害(疼痛性障害、心気症)、心身症、ストレス関連障害(外傷後ストレス障害、PTSD)、急性ストレス障害	宮地 英雄	精神科学
14	9	24	火	2	F0：症状性精神障害/ 身体救急における精神症状	症状性精神障害を引き起こしやすい病態や診断する上で重要なポイントについて理解する。リエゾンコンサルテーション精神医学について理解する。服けが、グリーンケアについて理解する	新井 久稔	精神科学
15	9	24	火	3	F5：摂食障害 F6：パーソナリティ障害	摂食障害、主に神経性やせ病に関しての診断・治療に関して学ぶ。パーソナリティ障害についての基本事項を理解する	廣岡 孝陽	精神科学
16	9	24	火	4	司法精神医学/ 地域医療/医療倫理	1) 我が国の精神医療に関する法制度(精神保健福祉法、障害者自立支援法、心神喪失者等医療観察法、成年後見制度)、 2) 地域医療(ケアマネージャー、精神保健福祉センター等)、 3) 医療倫理について概説する	宮岡 等	精神科学

17	9	25	水	1	F5, G2, G4 : 睡眠-覚醒障害群	正常睡眠、睡眠障害国際分類による代表的睡眠障害について理解する	田ヶ谷 浩邦	医療衛生学部
18	9	25	水	2	心理検査	知能検査、パーソナリティ検査(質問紙法、作業検査法、投影法)、神経心理学的検査、これらの3つの心理検査の特徴について説明する	井上 勝夫	精神科学
19	9	26	木	1	F1 : 精神作用物質による精神障害(アルコール)	アルコール関連問題、特にアルコール依存症について、その診断、症状、治療などを学ぶ	澤山 透	精神科学
20	9	26	木	2	精神療法	精神療法の基本事項、認知行動療法、精神分析的な精神療法、薬理療法、家庭療法等の基知について講じる、行動療法、認知行動療法、心理教育psychoeducation、芸術療法、音楽療法、家庭療法、製法療法、カウンセリング	生地 新	医療系研究科
21	9	26	木	3	F0 : 器質性精神障害／老年精神医学(1)	器質性精神障害に関する基本事項、および老年期に特徴的な精神障害について講じる	高橋 恵	精神科学
22	9	26	木	4	F0 : 老年精神医学(2)	認知症における、疫学、診断、治療等について講じる、地域での支援	高橋 恵	精神科学
23	9	27	金	3	症例発表とまとめ(1)		宮岡 等 齋藤 正範	精神科学
24	9	27	金	4	症例発表とまとめ(2)		新井 久稔	
準備学習 (予習・復習)		予習 : 配布された系統講義(精神系)テキストの“習得度自己チェックシート”のページを見ておくこと。 復習 : 習得度自己チェックシートを見返し、自己の学習到達度を評価する。						
参考図書		(1) 教科書 講義要旨集(北里大学医学部) (2) 学生参考図書 『精神医学ハンドブック』第7版 山下 格 著(日本評論社) 『現代臨床精神医学』大熊輝雄 著(金原出版) (3) その他の参考図書 『内科医のための精神症状の見方と対応』宮岡 等 著(医学書院) 『こころを診る技術』宮岡 等 著(医学書院) 『テキストブック児童精神医学』井上勝夫 著(日本評論社)						
到達目標		一般目標 医療現場で接する精神的問題に対し適切な対応ができる。 身体症状に対し心身両面を考慮した対応ができる。 個別目標 精神科面接の基本技能を理解する。 主な精神疾患の診断基準を知る。 主な精神症状の鑑別疾患をあげることができる。 精神疾患や精神症状に対する適切な治療法をあげることができる。 主な精神疾患の疫学について知る。 一般身体科領域における精神症状への対応について知る。 精神疾患と社会との関わりについて知る。 ライフサイクルと精神疾患の関わりについて知る。 精神疾患の診断や鑑別診断に必要な検査を理解する。						
評価基準		筆記試験、症例のプレゼンテーション、レポート、受講態度を総合的に判定。						
その他 注意事項		1) 精神面の問題への対応に、誠意ある熱心な姿勢は不可欠ですが、それだけでは不十分であり、精神医学という科学の知識が必要ですので、十分に勉強されることを期待します。 2) 講義に関する質問や注文はいつでもよいですから、科目責任者(miyaoka@med.kitasato-u.ac.jp)までお寄せ下さい。						

皮膚系

科目責任者	天羽 康之
担当者	天羽 康之*・安藝 良一*・藤村 響男*・増澤 真実子*・白井 京美* 東儀 那津子*・小原 宏哉*・齋藤 恭子*・高野 哲郎*
授業の目的	皮膚科学は本来皮膚病変の肉眼的初見にもとづいて発達した臨床医学の一分科であるが、近年の生化学・免疫学の進歩に従い、病態生理のより深い理解が要求されている。皮膚はその構造・機能からみても特異な臓器で、身体内外からの影響を受けて鋭敏に反応し、様々の病変を呈する。従って皮膚疾患と全身の関係は密接で、それには皮膚病変の全身への波及、全身疾患の部分症状としての皮膚病変、他の内臓病変の結果生じた皮膚病変があり、まさに「皮膚は全身状態をあらわす窓」である。皮膚科講義は皮膚疾患の理解と同時に、他の分野の臨床医学、基礎医学の有機的統合をはかることを目的とする。
教育内容	4学年における講義は実習に直接発展しうるものとする。具体的には (1)感染症 (2)湿疹・アレルギー (3)薬疹 (4)角化症 (5)紅斑 (6)膠原病 (7)血管炎 (8)水疱症 (9)皮膚腫瘍 (10)付属器疾患 (11)色素異常 (12)全身と皮膚 など教科書の項目に従い総論を中心とした講義を行なう予定である。中でも病態生理を中心とした疾患成立のメカニズムの理解を計る。教育目標にも述べた通り“全身の窓”としての皮膚はそれ単独では存在し得ないわけで、内科学を中心とした他の臨床各科の基礎知識を応用することによって、皮膚科学の理解を深めるとともに、皮膚科臨床実習を行うに足る基本的知識・能力を身につけることを minimum requirement とする。
教育方法	各項目の要点を解説し、皮膚疾患の病態生理が理解できるよう講義を行う。必要に応じて補足のための資料を配付する。

(12 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	11	14	木	3	皮膚の構造、付属器疾患、肉芽腫	皮膚の構造や発疹の表現について付属器疾患や肉芽腫を形成する疾患について	安藝 良一	皮膚科学
2	11	14	木	4	湿疹皮膚炎群、痒疹・皮膚掻痒症、蕁麻疹	湿疹の定義、湿疹が生じる疾患について痒疹の分類、皮膚掻痒症の病因について蕁麻疹の定義、症状について	白井 京美	皮膚科学
3	11	20	水	3	紅斑症・紅皮症	紅斑が生じる疾患について紅皮症を来す疾患について	東儀 那津子	皮膚科学
4	11	20	水	4	紫斑病・循環障害、血管炎	紫斑病・循環障害・血管炎の症状、病理組織所見、治療について	増澤 真実子	皮膚科学
5	11	25	月	1	水疱症・膿疱症	自己免疫性水疱症、先天性水疱症、膿疱症の各疾患における病因、症状、治療について	齋藤 恭子	皮膚科学
6	11	25	月	2	皮膚免疫	皮膚の免疫防御能、ハンセン病の臨床病型について	藤村 響男	皮膚科学
7	11	28	木	4	皮膚感染症	細菌性、ウイルス性、抗酸菌性などの感染症疾患の症状、病因、治療について	高野 哲郎	皮膚科学
8	11	29	金	4	角化症・炎症性角化症	乾癬の病因、症状、病理組織所見、治療についてその他の炎症性角化症と角化症の症状について	安藝 良一	皮膚科学
9	12	13	金	4	膠原病およびその類症	膠原病疾患の皮膚症状について	白井 京美	皮膚科学
10	12	17	火	1	脈管系皮膚腫瘍、代謝異常症、色素異常症	良性脈管系腫瘍の疾患別の特徴と血管肉腫の症状・治療について。代謝異常によって生じる皮膚疾患の特徴について。色素異常をきたす疾患について	増澤 真実子	皮膚科学
11	12	18	水	1	中毒疹・薬疹、物理化学障害	薬疹の臨床病型分類、原因薬剤、薬剤同定検査、治療について熱傷や褥瘡の発生機序や治療などについて	小原 宏哉	皮膚科学
12	12	18	水	2	皮膚形成異常症、母斑・母斑症、皮膚腫瘍	皮膚腫瘍の症状・病理組織所見・ダーモスコピーについて皮膚形成異常を来す疾患・母斑症について	天羽 康之	皮膚科学

準備学習
(予習・復習)

予習：事前に配布する皮膚科学の学生用参考資料の該当項目を一読しておくこと。これまでに学習した他の臨床各科の基礎知識を再確認しておくこと。
復習：授業範囲において参考図書を一読しておくこと。

<p>参 考 図 書</p>	<p>(1) 教科書 講義要旨集（北里大学医学部）</p> <p>(2) 学生参考図書 『あたらしい皮膚科学』清水宏（中山書店） 『皮膚病アトラス』西山茂夫（文光堂）…発疹のみかた、疾患の理解のための皮膚科図譜 『皮膚科学』上野賢一（金芳堂） 『標準皮膚科学』池田重雄 監修（医学書院）</p> <p>(3) その他の参考図書 『Textbook of Dermatology』Rook A.（Blackwell）…英文皮膚科学教科書 『Histopathology of the Skin』Lever. W. F.（J. B. Lippincott）…英文皮膚病理学教科書 『皮膚科サブノート』西山茂夫（南江堂） 『最新皮膚科学大系』玉置邦彦 他（中山書店） 『皮膚科診断治療大系』福代良一 他（講談社） 『実践皮膚病変のみかた』勝岡憲生 他（日本医師会雑誌第134巻・特別号(2)）</p>
<p>到 達 目 標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚疾患の理解に必要な解剖を説明できる 2. 皮膚疾患の理解に必要な生理機能を説明できる 3. 皮膚の構造とその疾患を説明できる 4. 皮膚の構造とその疾患に対する治療を説明できる 5. 皮膚の奇形と機能障害について説明できる 6. 皮膚障害の機序と病態を説明できる 7. 皮膚疾患（皮膚腫瘍、発疹形態、浮腫を含む）の基本的病態を説明できる 8. 皮膚疾患の病態を理解し診療に結び付けることができる。
<p>評 価 基 準</p>	<p>筆記試験および受講態度による。</p>

視覚系

科目責任者	庄司 信行
担当者	庄司 信行*、柳田 智彦*、相澤 大輔*、飯田 嘉彦*、後関 利明*、笠原 正行*、佐藤 信之*、石川 均(兼)*、神谷 和孝(兼)*、半田 知也(兼)*、川守田拓志(兼)*、宇津見義一(非)
授業の目的	知覚を通じて人間が外界から受け取る情報は全情報の83%と言われている。ビックデータの時代となり、その重要性は益々増加しており、眼科医以外の医師にも眼科学の知識が要求される。また、一部の全身疾患と眼科疾患は密接な関係があることも含め、医学部学生として必要な基礎的な知識を十分習得させる。
教育内容	(1) 眼科検査法を解説する 1) 感覚受容器官としての眼科検査法を学ぶ 2) 運動器官としての眼科検査法を学ぶ (2) 眼疾病学を系統的に解説する (3) 眼科治療学(眼科手術学を含む)を写真やビデオで見ながら学ぶ (4) 最近の眼科学の動向を紹介する
教育方法	症例の眼科写真や実際の手術ビデオを提示し、講義をすすめていく。

(16コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	10	22	火	3	眼科概論	眼科全般について総論	庄司 信行	眼科学
2	10	22	火	4	視力、屈折、調節	視力、屈折、調節の基本	川守田 拓志	医療衛生学部
3	10	23	水	1	高次機能、検査機器	脳と視覚の関係、眼科検査機器	半田 知也	医療衛生学部
4	10	23	水	2	小児眼科	未熟児網膜症を中心に小児眼科疾患について	後関 利明	眼科学
5	10	23	水	5	学校保健、コンタクトレンズ	学校保健の現状、コンタクトレンズについて	宇津見 義一	非常勤講師
6	10	28	月	1	ぶどう膜炎	ぶどう膜炎の診断と治療	佐藤 信之	眼科学 (KMC)
7	10	28	月	2	神経眼科	眼球運動障害、視神経炎など	石川 均	医療衛生学部
8	10	28	月	5	斜視・複視	斜視・複視について	後関 利明	眼科学
9	10	29	火	1	網膜疾患、黄斑疾患	網膜疾患、黄斑疾患の基本について	柳田 智彦	眼科学
10	10	29	火	2	糖尿病網膜症、全身疾患関連	糖尿病網膜症を含めた、全身疾患と眼の関係について	柳田 智彦	眼科学
11	10	29	火	5	角膜疾患	角膜疾患、結膜疾患	相澤 大輔	眼科学
12	10	30	水	1	屈折矯正手術	屈折矯正手術	神谷 和孝	医療衛生学部
13	10	30	水	2	緑内障1	緑内障の概念、診断	笠原 正行	眼科学
14	10	30	水	5	緑内障2	緑内障の治療	笠原 正行	眼科学
15	10	31	木	3	白内障	白内障手術の基本と最新の知見	飯田 嘉彦	眼科学
16	10	31	木	4	眼科救急疾患・まとめ	眼科救急疾患、視覚系講義のまとめ	庄司 信行	眼科学

準備学習 (予習・復習)	予習：眼の発生、解剖について確認しておくこと。 復習：講義で取り上げた疾患に関し、教科書を読み理解を深め、臨床実習前に知識を定着しておくこと。
参考図書	(1) 教科書 『眼科学大系（全 10 巻）』増田寛次郎 編集（中山書店） 『イラスト眼科』渡部郁緒・新美勝彦 著（文光堂） 『Ophthalmology』F W Newell (Mosby) (2) 学生参考図書 『眼科学辞典』増田寛次郎 編集（メディカル葵）
到達目標	1. 眼疾患を系統的に説明できる。 2. 眼科視機能検査法を理解し説明できる。 3. 眼科視機能検査の結果を説明できる。 4. 眼科診断学を説明できる。 5. 全身疾患と眼疾患の関係が説明できる。 6. 手術動画を視聴し、手術の内容を説明できる。 7. 眼底写真、蛍光眼底造影検査、OCT 検査の結果を説明できる。 8. 最近の眼科学のトピックを説明できる。
評価基準	受講態度、筆記試験による。尚、欠席は減点対象とする。
A V 資料	Slide Atlas of Ophthalmology

耳鼻・咽喉・口腔系

科目責任者	山下 拓
担当者	山下 拓*・長沼 英明*・落合 敦*・鈴木 立俊*・清野 由輩*・宮本 俊輔* 栗岡 隆臣*・古木 省吾*・浮洲 龍太郎*・佐野 肇(兼)*・堀口 利之(兼)*
教育内容	耳鼻・咽喉・口腔系は頭頸部腫瘍、内耳平衡(めまい)、耳科・聴覚、鼻副鼻腔、口腔・咽頭、喉頭・気管・食道、音声言語障害、嚥下障害など広範な領域を含み、感覚(聴覚、味覚、嗅覚など)や重要機能(嚥下、音声言語、呼吸など)の深くかかわる学問である。
教育方法	講義形式で行う。
授業の目的	耳鼻・咽喉・口腔系では、当該領域の解剖・生理、疾患の病態・診断・治療に関する基礎的知識を横断的に学び、人が人らしく生きるために極めて重要な五感や嚥下・音声言語・呼吸などの機能に深く関与する当該領域の診療上の工夫についても理解することを目標とする。また頭頸部領域に発生する良性および悪性腫瘍についても、その疫学、診断、治療、予後の概略について理解することを目標とする。

(20 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	11	6	水	3	頭頸部腫瘍①	頭頸部腫瘍の解剖と機能、疾患について理解する	山下 拓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
2	11	6	水	4	頭頸部腫瘍②	頭頸部腫瘍領域のトピックを学ぶ	山下 拓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
3	11	7	木	1	咽喉頭・気管・食道	咽喉頭、気管、食道の解剖生理について学ぶ	清野 由輩	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
4	11	7	木	2	嚥下障害	嚥下障害について、解剖生理、検査、治療について学ぶ	清野 由輩	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
5	11	7	木	3	頭頸部腫瘍③	頭頸部腫瘍の解剖と機能、疾患について理解する	山下 拓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
6	11	8	金	1	耳科検査学	聴覚検査について理解する	栗岡 隆臣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
7	11	8	金	2	耳疾患①	感音難聴について学ぶ	栗岡 隆臣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
8	11	8	金	3	耳疾患②	伝音難聴について学ぶ	古木 省吾	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
9	11	11	月	1	口腔、咽頭疾患	口腔、咽頭の良性疾患について学ぶ	宮本 俊輔	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
10	11	11	月	2	喉頭疾患	喉頭の良性疾患について学ぶ	宮本 俊輔	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
11	11	11	月	3	内耳平衡学①	内耳前庭器の構造と機能を学ぶ	長沼 英明	新世紀医療開発センター
12	11	11	月	4	内耳平衡学②	耳性めまいのメカニズムを学ぶ	長沼 英明	新世紀医療開発センター
13	11	12	火	3	内耳平衡学③ 【M-22】	平衡機能検査と耳性めまい疾患について学ぶ	落合 敦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
14	11	12	火	4	音響工学・音響心理学・聴覚生理学 【M-22】	音の物理と感覚のとらえ方、聴覚のしくみについて学ぶ	佐野 肇	医療衛生学部
15	11	13	水	3	言語障害 【M-22】	言語障害の病態生理について学ぶ	堀口 利之	医療衛生学部
16	11	13	水	4	音声障害 【M-22】	音声障害の病態生理について学ぶ	堀口 利之	医療衛生学部
17	11	14	木	1	頭頸部放射線診断学	頭頸部の放射線画像診断について学ぶ①	浮洲 龍太郎	放射線科学(画像診断学)
18	11	14	木	2	頭頸部放射線診断学	頭頸部の放射線画像診断について学ぶ②	浮洲 龍太郎	放射線科学(画像診断学)

19	11	15	金	1	鼻の解剖学・生理学 (含む、検査学)	鼻腔構造を理解する	鈴木 立俊	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学
20	11	15	金	2	鼻副鼻腔疾患	副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎を 理解する	鈴木 立俊	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学
到達目標					(1) 聴覚、平衡覚に関与する解剖、生理機能について、その概略を説明ができる。 (2) 音声、言語、嚥下に関与する解剖、生理機能について、その概略を説明ができる。 (3) 鼻副鼻腔に関与する解剖、生理機能について、その概略を説明ができる。 (4) 唾液腺に関与する解剖、生理機能について、その概略を説明ができる。 (5) 聴覚、平衡覚に関する疾患について、その発症メカニズム、疫学、診断、治療、予後についての基本的事項を説明できる。 (6) 音声、言語、嚥下に関する疾患について、その発症メカニズム、疫学、診断、治療、予後についての基本的事項を説明できる。 (7) 鼻副鼻腔に関する疾患について、その発症メカニズム、疫学、診断、治療、予後についての基本的事項を説明できる。 (8) 唾液腺に関する疾患について、その発症メカニズム、疫学、診断、治療、予後についての基本的事項を説明できる。 (9) 頭頸部に発生する良性および悪性腫瘍の疫学、診断、治療、予後についての基本事項を説明できる。			
評価方法					定期試験により主に評価（100%）を行い、受講態度・出欠状況（10%程度 減点法）を加味して総合的に評価する。			
準備学習					各講義前に下記教科書の該当箇所をよんでくること。また講義後、下記教科書および配布テキストにより理解不十分な点について整理しておくこと。			
参考図書					教科書 (1) 配布テキスト (2) 『新耳鼻咽喉科学』切替一郎、野村恭也 編（南山堂）			

救急・侵襲医療系

科目責任者	岡本 浩嗣
担当者	岡本 浩嗣*・浅利 靖*・片岡 祐一*・中谷 研斗*・櫻見 文枝*・服部 潤* 金井 昭文*・新井 正康*・黒岩 政之*・戸田 雅也*・松田 弘美*・武田 啓* 根本 充*・石川 心介*・柏木 慎也*・杉本 孝之*・島倉 康人*・君塚 幸子* 塩谷 信幸 (名誉教授) *
授業の目的	<ol style="list-style-type: none"> 救命救急医学：突然の病気や外傷など過大な侵襲に襲われた事態で、医師としてどのような診断と治療を行うべきかについて理解する。また、命を救うために整備されている社会の仕組みについても学ぶ。 麻酔科学：手術や外傷といった侵襲に対する生体反応管理学としての麻酔学を理解する。麻酔の必要性、方法、麻酔薬の使い方を理解する。安全な麻酔のためのモニターを理解する。ペインクリニックで扱う患者の診断と治療法を学ぶ。侵襲時の呼吸、循環管理を通して急性期医療における全身管理法を理解する。がん性疼痛に対する麻酔科学の役割を理解する。集中治療医学を理解する。 形成外科・美容外科学：本講では形成外科・美容外科学で取り扱われる主な疾患を中心に講義を行い、再建外科としての形成外科を理解するとともに臨床実習を行なうために必要な基礎的知識を習得することを目標とする。
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> 救命救急医学 <ol style="list-style-type: none"> (1)救急診療の基本、(2)過度の侵襲に対する診療、(3)災害時の診療の3つに分けて講義する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 救急診療の基本では、病気や怪我の患者に対応する時には常に緊急度・重症度を考慮して診療すること。また、重症患者を救命するためのメディカルコントロール体制などについて講義を行う。 (2) 過度の侵襲に対する診療では、心停止、外傷、中毒などでは致死的病態の鑑別診断と治療を同時に行う必要があり、その診断と治療について講義する。 (3) 災害時の診療については、重症者を優先して救命するためのトリアージの概念や災害時の医療対応について講義と混乱の中でのトリアージや医療機関の役割を理解するためのシミュレーション実習を行う。 麻酔科学 <ol style="list-style-type: none"> 1) 侵襲時の循環管理とモニタリング、2) 侵襲時の呼吸管理とモニタリング、3) 全身麻酔・区域麻酔、4) 産科麻酔、5) ペインクリニックとがん性疼痛、6) 週術期危機管理、7) 集中治療医学 の7項目に分けて講義する。 形成外科・美容外科学 <ol style="list-style-type: none"> (1)総論(2)先天性疾患(3)後天性疾患(4)美容外科の4つの部門に分けて講義する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 総論では、創傷治癒・体表面解剖に関し講義を行い、さらに機能的・形態的改善を目指す形成外科学の特徴について講義を行う。 (2) 先天性疾患については、口唇口蓋裂、多合指症等を中心に、機能のみならず個人を社会に適応させQOLを高めることを目指す手術法について講義を行う。 (3) 後天性疾患については、顔面外傷を中心に診断、プライマリケアのポイントを講義する。また、皮膚悪性腫瘍、難治性潰瘍について再建を含めた手術法について講義を行う。 (4) 美容外科については眼瞼の形成手術を中心に講義を行う。またレーザー、フィラーなど最新の美容治療についても講義を行う。
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> 救命救急医学 テキストと不足分はプリントを配布し講義を進める。 麻酔科学 参考図書その他、スライド・プリント等を使用する。 形成外科・美容外科学 テキストと不足分はプリントを配布し、スライドを用いて講義を進める。

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	9	18	水	3	救急医学総論	救急患者の診療のポイントである緊急度・重症度判定について学び、さらに我が国の救急医療システム、メディカルコントロール体制についても講義する。	浅利 靖	救命救急医学
2	9	18	水	4	外傷の初期診療	致命的損傷を早期に見つけ出し診断と治療を行うためのプライマリーサーベイおよびセカンダリーサーベイの基本について講義する。	片岡 祐一	救命救急医学
3	9	20	金	1	臨床中毒学総論	中毒初療ポイント、および胃洗浄、活性炭投与などの基本的診療と頻度の多い薬物中毒・中毒について講義する。	浅利 靖	救命救急医学
4	9	20	金	2	心肺蘇生の理論と実際	心肺蘇生ガイドライン 2015 に準じて心肺蘇生の理論と手技を講義する。	榎見 文枝	救命救急医学
5	9	27	金	1	ショックの病態と診断	閉塞性ショック、出血性ショック、敗血症ショックなどの各種ショックの病態と診断について講義する。	中谷 研斗	救命救急医学
6	9	27	金	2	災害医療概論	災害時のトリアージの基本、災害時医療体制や DMAT について講義する。	服部 潤	救命救急医学
7	9	30	月	3	NBC・CBRNE 災害	化学災害・生物剤・放射線災害などによるテロを含めた災害について講義する。	浅利 靖	救命救急医学
8	9	30	月	4	形成外科入門	形成外科の扱う疾患と手術手技の進歩、特に組織移植と創傷治癒の基本について解説する。また、皮膚腫瘍の外科治療と再建について講義する。	武田 啓 柏木 慎也	形成外科・ 美容外科学
9	10	1	火	1	手外科	手の基本的な解剖、機能を解説するとともに代表的な手外科疾患を講義する。	根本 充	形成外科・ 美容外科学
10	10	1	火	2	眼瞼疾患と美容外科	形成外科で扱うことの多い眼瞼の疾患特に加齢性眼瞼下垂について解剖から治療法まで解説する。美容外科・美容皮膚科について、種々の治療法について講義する。	島倉 康人	形成外科・ 美容外科学
11	10	1	火	3	顔面外傷Ⅰ・顎口腔疾患	中顔面・下顔面の各種骨折の病態と顎口腔の生じる主に病源性疾患について講義する。	君塚 幸子	形成外科・ 美容外科学
12	10	1	火	4	口唇口蓋裂と関連疾患	口唇口蓋裂の病態・症候を解説するほか、当院の手術治療、チーム医療について講義する。	杉本 孝之	形成外科・ 美容外科学
13	10	2	水	2	アンチエイジング医学の勧め	アンチエイジング医学とは不老不死ではなく健康長寿を目指すものである。これは全身的な若返りと見た目の若返りの両面がある。形成外科とのかわりについて紹介する。	塩谷 信幸	名誉教授
14	10	2	水	3	顔面外傷Ⅱ・熱傷	日常診療でも役立つ顔面外傷と熱傷の診断と治療について講義する。	石川 心介	形成外科・ 美容外科学
15	10	2	水	4	全身麻酔と区域麻酔	全身麻酔と区域麻酔の総論と各論について講義する。	松田 弘美	麻酔科学
16	10	3	木	1	気道・呼吸管理とそのモニタリング	周術期の気道・呼吸管理とそのモニタリングについて講義する。	戸田 雅也	麻酔科学
17	10	3	木	2	ペインクリニック	痛みの定義・伝達・分類・診断・治療について講義する。	金井 昭文	新世紀医療 開発センター
18	10	3	木	3	産科麻酔と無痛分娩	産科麻酔の実際と無痛分娩の日本の現状について講義する。	奥富 俊之	麻酔科学
19	10	3	木	4	周術期 PBLD	周術期の諸問題の解決法について講義する。	黒岩 政之	麻酔科学
20	10	4	金	1	心臓・循環管理とそのモニタリング	周術期の心臓・循環管理とそのモニタリングについて講義する。	岡本 浩嗣	麻酔科学
21	10	4	金	2	周術期集中治療・ACLS・BLS	周術期集中治療について講義する。	新井 正康	新世紀医療 開発センター

**準備学習
(予習・復習)**

1) 救命救急医学

予習：テキストを事前に読み、専門用語などで意味が分からないところは調べておくこと。自分なりに学ぶべきポイントを推察し講義に臨むこと。
復習：講義でポイントとしたところは臨床実習で必要となるので、学習ノートなどを作成し習得すること。

2) 麻酔科学

予習：参考図書に目を通しておくことが望ましい。
復習：講義内容を参考図書と照らし合わせる等、振り返っておくことが望ましい。

<p>参 考 図 書</p>	<p>(1) 教科書</p> <p>1) 救命救急医学 『標準救急医学』日本救急医学会 (医学書院) 『急性中毒診療ハンドブック』上條吉人 (医学書院) 『外傷初期診療ガイドライン』日本外傷学会・日本救急医学会 (へるす出版) 『緊急被ばく医療テキスト』青木芳朗、前川和彦 (医療科学社)</p> <p>2) 麻酔科学 『標準 麻酔科学 (第6版)』稲田英一 他 (医学書院)</p> <p>3) 形成外科・美容外科学 『標準形成外科学 (第7版)』平林慎一、鈴木茂彦 (医学書院)</p> <p>(2) 学生参考図書</p> <p>1) 救命救急医学 『救急疾患の早期診断と初期治療』小濱啓次 編 (新興医学出版)</p> <p>2) 麻酔学 『気道管理ガイドブック』改訂第2版 岡本浩嗣 監修 (真興交易医書出版部)</p> <p>3) 形成外科・美容外科学 『形成外科 ADVANCE シリーズ』波利井清紀 ほか編 (克誠堂出版)</p> <p>(3) その他の参考図書</p> <p>3) 形成外科・美容外科学 『Plastic Suegery』Grabb & Smith (Little Brown)</p>
<p>到 達 目 標</p>	<p>1) 救命救急医学：</p> <p>①緊急度・重症度の違いについて説明できる。 ②緊急度判定に必要な要素を理解する。 ③我が国の救急医療システムについて説明できる。 ④致命的損傷について診断し初療について理解する。 ⑤急性薬毒物中毒の初期治療について理解する。 ⑥心停止の蘇生のアルゴリズムを理解する。 ⑦災害時のトリアージについて理解し活用できる。</p> <p>2) 麻酔科学：</p> <p>①全身麻酔の流れに即して、術前評価、麻酔導入、麻酔維持、麻酔覚醒、術後管理を説明できる。 ②全身麻酔に使用される麻酔薬について説明できる。 ③区域麻酔として硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、神経ブロックについて説明できる。 ④周術期気道と呼吸の管理とそのモニタリングについて説明できる。 ⑤周術期循環の管理とそのモニタリングについて説明できる。 ⑥術後急性痛や慢性疼痛についてその機序と治療方法を説明できる。 ⑦がん性疼痛についてその機序と緩和医療を説明できる。 ⑧術後患者や院内急変患者の集中治療において呼吸・循環・感染管理の実際を説明できる。 ⑨院内急変患者への迅速対応や呼吸療法サポートについて説明できる。 ⑩安全な周術期患者管理について説明できる。</p> <p>3) 形成外科・美容外科学：</p> <p>①組織移植と創傷治癒の基本について説明できる。 ②皮膚腫瘍における形成外科的治療について説明できる。 ③健康長寿を目指すアンチエイジング医学について説明できる。 ④手の基本的な解剖・機能について説明できる。 ⑤代表的な手外科疾患について説明できる。 ⑥顔面外傷として中顔面・下顔面の各種骨折の病態について説明できる。 ⑦熱傷の診断と治療について説明できる。 ⑧口唇口蓋裂の病態・症候について説明できる。 ⑨当院における口唇口蓋裂の手術治療・チーム医療について説明できる。 ⑩眼瞼の疾患、特に加齢性眼瞼下垂症について眼瞼の解剖を含め治療について説明できる。 ⑪興味、関心や疑問点は積極的に質問する。</p>

<p>評価基準</p>	<p>各单位ごとに評価基準を設け、それぞれの評価から総合的に判定する。</p> <p>1) 救命救急医学：講義やシミュレーションでの積極的な参加は加点対象とし、学習態度と試験による総合評価とする。なお、欠席は減点対象とする。</p> <p>2) 麻酔科学：受講態度、実習態度、記述試験、レポート等で到達目標に達しているか評価する。</p> <p>3) 形成外科・美容外科学：受講態度、記述試験による。なお、欠席は減点対象とする。到達目標に則した記述試験と、ミニッツ・ペーパー等を用いた理解度、受講態度による総合評価とする。</p>
--------------------	---

内科学総論

科目責任者	青山 直善
担当者	青山 直善*・西山 和利*・鈴木 隆浩*・天羽 康之*・田邊 聡*・守屋 利佳* 田中 住明*・内藤 正吉*・鎌田 裕二*・大石 智*・福井 朋也* 小野沢 滋(非)・臨床実習入門担当者*
授業の目的	内科学総論 内科学総論では、多様なニーズに対応できる医師の養成の一環として、患者観察から体系的に把握したことを科学的に分析し、その病態生理や病因を明らかにして治療、患者指導を行う内科一般診療の横断的アプローチ法を習得する。 臨床実習入門 臨床実習では臨床の現場で医療チームに参加しながら学ぶことが求められる。診療参加型臨床実習を行うに足る知識はもとより、技能と態度を習得する。
教育内容	内科学総論 (1) 患者に対する診療の基本的な進め方について、医療面接、臨床推論、鑑別診断、診療録の記載、について解説する。 (2) 超高齢社会における内科医、総合診療医の役割、多職種連携。総合診療、地域医療、在宅医療の役割について解説する。 (3) 内科救急および全身的な徴候に対する診療アプローチ法を解説する。 臨床実習入門 以下の内容について講義と実習を行う ・ 医療面接 ・ カルテ記載法 ・ 診察法（頭頸部、胸部、腹部、神経、小児、四肢と脊柱、乳腺、） ・ 基本的臨床手技（縫合と抜糸、外科の手洗い、ガウンテクニック、手袋装着、静脈採血、12誘導心電図測定、救急など） ・ 感染管理対策 ・ 医療倫理 ・ 医療安全 ・ メディカルスタッフ実習 ・ 各科病棟実習 ・ 患者さんから学ぶ（患者講師の講義） ・ 発表と討論
教育方法	内科学総論 資料プリントを配布した上で、パワーポイントを適宜使用しながら講義を行う。教員によっては、講義終了時に適宜小テストを行う。 臨床実習入門 講義及び小グループに分かれて実習を行う 相互評価や各自の振り返りも随時実施する

(18 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	8	26	月	1	発熱	症候学における発熱のとらえ方、熱型と疾患、不明熱について概説する	田中 住明	膠原病・感染内科学
2	8	26	月	2	呼吸器の症状	せき、たん、息切れ	福井 朋也	呼吸器内科学
3	8	26	月	3	メンタルな問題への対応	よく出会う問題や症状とその対応についてお話しします	大石 智	精神科学
4	8	26	月	4	神経学的所見の基礎	OSCE 演習の前段階として、神経所見のとり方とその意義について基礎から学ぶ	西山 和利	脳神経内科学
5	8	27	火	1	医療面接と診断	病歴聴取と診療録記載（POS システム）について	青山 直善	総合診療医学

6	8	27	火	2	浮腫	浮腫の病態と鑑別	内藤 正吉	腎臓内科学
7	8	27	火	3	全身倦怠・食欲不振	臓器・器官が多岐に亘る症候へのアプローチについて概説する	青山 直善	総合診療医学
8	8	27	火	4	体重増加・体重減少	臓器・器官が多岐に亘る症候へのアプローチについて概説する	青山 直善	総合診療医学
9	8	28	水	1	貧血とリンパ節腫脹	所見のとり方、検査値のよみ方、診断の流れ	鈴木 隆浩	血液内科学
10	8	28	水	2	性差医療とキャリアデザイン	性差医療について、その概念、歴史、現状を概説する医師としてのキャリアを生涯にわたってどのようにデザインするか考える一助とする	守屋 利佳	医学教育研究部門
11	8	28	水	3	胸痛、胸部不快感	胸痛、胸部不快感を訴える患者さん进行どう診るか	目黒 健太郎	循環器内科学
12	8	28	水	4	診断推論、身体所見と診断	症候から診断へのアプローチについて、感度・特異度をふまえた診察について	青山 直善	総合診療医学
13	8	29	木	1	総合診療・地域医療・在宅医療、高齢者医療、多職種連携	総合診療、地域医療、在宅医療の役割、超高齢社会に求められる医師	小野沢 滋	非常勤講師
14	8	29	木	2	全身と皮膚	皮膚症状から全身症状を考える	天羽 康之	皮膚科学
15	8	29	木	3	吐血・下血、腹痛	吐血、腹痛の鑑別診断と治療について解説する	田邊 聡	新世紀医療開発センター
16	8	29	木	4	肥満、るいそう、発育障害	肥満分類、成因、基準、臨床的重要性やせは分類、基準を中心に	鎌田 裕二	内分泌代謝内科学
17	8	30	金	1	めまい・不安・抑うつ・もの忘れ	臓器・器官が多岐に亘る症候へのアプローチについて概説する	青山 直善	総合診療医学
18	8	30	金	2	基本的診療技能	臨床推論、医療面接、診療録、臨床判断について、内科救急指針を含めて講義する	青山 直善	総合診療医学

準備学習 (予習・復習)	<p>内科学総論</p> <p>講義は、臨床実習入門で実施する実技の基礎となるものであり、臨床実習後（Post-CC）客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination）と深く関連している内容である。内科一般診療の横断的アプローチ法を習得する上で、内科学総論の講義と臨床実習入門の両者を相互的に習得してもらいたい。</p> <p>全身的な徴候に対する診療アプローチ法の講義は、総合診療医学臨床実習で臨床推論を実施する内容である。診断に必要な病歴聴取、身体診察、基本的な検査を実施して、プロブレムごとに鑑別診断を想定できるように、系別総合講義や各論の講義を踏まえて、予習、復習をしてほしい。</p> <p>臨床実習入門</p> <p>予習：提示された参考資料、教科書などに必ず目を通しておくこと。</p> <p>診察法、基本的臨床手技に関しては、Moodle 上に提示された動画をあらかじめ視聴し、実施できるようにしておくこと。</p> <p>復習：医療面接、診察法などは講義・実習の復習に加え、学生同士でもロールプレイなどを行うこと。</p>
	<p>内科学総論</p> <p>(1) 教科書</p> <p>① 『内科診断学（第3版）』（医学書院）</p> <p>② 『内科学』（朝倉書店）</p> <p>(2) 学生参考図書</p> <p>① 『誰も教えてくれなかった診断学』（医学書院）</p> <p>② 『エビデンス身体診察』（文光堂）</p> <p>③ 『ハリソン内科学 第4版』（メディカルサイエンスインターナショナル）</p> <p>④ 『メディカルインタビュー』（メディカルサイエンスインターナショナル）</p> <p>臨床実習入門</p> <p>ベイツ診察法第2版：メディカル・サイエンスインターナショナル</p>
参考図書	

到達目標	<p>内科学総論</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療面接の機能と実際を説明できる。 (2) 臨床推論と臨床疫学の基本および診療録の書き方について説明できる。 (3) 根拠に基づいた医療（Evidence based medicine）について説明できる。 (4) 地域包括ケアシステムについて説明できる。 (5) 在宅医療と家庭医の必要性と役割について説明できる。 (6) 高齢者の背景、老年症候群について説明できる。 (7) 終末期医療について説明できる。 (8) 総合診療医として各臓器・領域の専門医、医療と介護・福祉の連携について説明できる。 (9) 全身的な基本徴候について病態生理、病因、鑑別診断について説明できる。 (10) 内科救急指針の基本を説明できる。 <p>臨床実習入門</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病歴、現症のとり方を理解し、患者さんから必要な情報を得ることができる。 2) Problem Oriented System (POS)、Problem Oriented Medical Record (POMR) を理解し、所見をカルテに記載するとともに、診断から治療へと展開する方法を述べるることができる。 3) 基本的な（「診療参加型臨床実習に参加する受験生に必要な学習・評価項目」－共用試験実施評価機構－に記載されている）診察法・基本的臨床手技や医療安全を実施することができる。 4) 病院内の各部署の業務を説明することができる。 5) 病院内の各部署で、リーダーの指示に従い、スタッフと共に動くことができる。 6) 臨床実習に臨む医学生として適切な態度をとることができる。
評価基準	<p>内科学総論</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 講義・実習態度、出席状況 (2) 筆記試験 <p>臨床実習入門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習中の態度 ・レポート、発表会 <p>上記を総合的に判断し、内科学総論の成績と合わせて評価する。</p>
A V 資料	<p>伴信太郎：DVD 基本的身体診察法 全5巻組（京都科学）</p>
その他注意事項	<p>内科学総論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床実習入門は全出席を原則とする。 2) 実習開始前に聴診器などの共同購入があるので、連絡に留意する。 3) 客観的臨床能力試験（OSCE）は、臨床実習入門終了後に実施され、内科学総論の可否には影響しない。ただし、OSCE は CBT と同様に独立して進級判定に関与する。 4) 常に個人情報保護に留意する。 5) 清潔な服装を心がけ、身だしなみに留意する。 <p>臨床実習入門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席は 100% を基準とする。 ・正当な理由により、遅刻・早退・欠席した場合は、与えられた課題に関するレポートを提出すること。このレポートは評価の対象となる。 ・実習時には所定のユニフォームを着用すること

外科学総論

科目責任者	隈元 雄介
担当者	隈元 雄介*・仙石 紀彦*・菊池 史郎*・高橋 禎人*・加藤 弘*・三浦 啓寿* 山本 裕輝*・内田 一徳(非)*・桜本 信一(客員教授)*・牛久 秀樹* 田中 潔*・比企 直樹*・山梨 高広*・中村 隆俊*・海津 貴史*・内藤 正規*
授業の目的	<p>外科学は臨床医学の一分野で、特に「手術的治療法」を主要な手段とする治療医学ないし応用医学である。</p> <p>近年の医学・医療の進歩にともない、各種疾患に対する外科的治療法(特に手術)の種類が増え、難度の高い手術も多くなってきている。</p> <p>従って、その適応の決定、手術前後の患者管理、合併・後遺症の防止、補助療法など、外科的疾患を有する患者の治療上の課題はますます多く、かつ複雑になってきている。</p> <p>よき医師になるためには、学生の時からできるだけ広い視野に立って、外科学は勿論、基礎・臨床各科の領域に関連する事項を系統だてて学び、それらを確かな知識として、自分の中で構築する努力が必要である。</p> <p>「外科学総論」では広範な外科学の内容を22コマに圧縮配分して、外科学の基本的知識のみならず先端医療・医学の知見までも含めて、総合的に習得させることを目標としている。</p> <p>その目標に向けて努力することにより、第5学年における臨床実習(BSL)が効果的かつ能率的に行われ卒前教育として最大の効果があがるように配慮されている。</p> <p>なお、本来外科学各論に含まれるヘルニア、甲状腺・副甲状腺、乳腺、小児外科は外科学総論の中で講義される。</p>
教育内容	<p>(1)外科の歴史と将来について学び、外科に対する造詣を深くする。</p> <p>(2)客員教授の桜本信一先生による特別講義『外科医の個人史』を通して医師になるまでの心得考える。</p> <p>(3)外科疾患や外科侵襲に関係する病態生理、外科治療を受ける患者の術前術中術後管理に必要な基本的事項に関して講義を行う。</p> <p>(4)臓器移植、人口臓器、腫瘍学に関して外科的立場から講義を行う。</p> <p>(5)各論として甲状腺、副甲状腺疾患、乳腺疾患、小児外科疾患に関して各分野の専門医が講義を行う。</p>
教育方法	教科書以外にプリントを配布しこれに従って講義をすすめる。

(22コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	5	8	水	1	乳腺(1)	乳腺疾患の診断と治療	仙石 紀彦	外科学
2	5	8	水	2	乳腺(2)	乳房治療の概略	仙石 紀彦	外科学
3	5	9	木	1	外科的感染症	周術期感染症の特徴および院内感染予防とその対策について	菊池 史郎	医学教育研究開発センター
4	5	9	木	2	出血、止血、輸血	出血、止血、輸血	高橋 禎人	外科学
5	5	10	金	1	甲状腺・副甲状腺	甲状腺・副甲状腺疾患の総論および各論	加藤 弘	外科学
6	5	10	金	2	ショック	ショックの概念、診断、分類、病態生理、治療について	三浦 啓寿	外科学
7	5	13	月	3	小児外科(1)	小児外科学総論、固形腫瘍(悪性固形腫瘍、頭頸部、横隔膜)	山本 裕輝	外科学
8	5	13	月	4	小児外科(2)	小児外科学総論、固形腫瘍(悪性固形腫瘍、頭頸部、横隔膜)	山本 裕輝	外科学
9	5	14	火	3	外科の歴史と将来	外科の歴史を楽しく理解することを目標にする	内田 一徳	非常勤講師

10	5	14	火	4	ヘルニア（腹壁、横隔膜、その他の内ヘルニア）	ヘルニアの病態・診断・治療について学ぶことを目標にする	内田 一徳	非常勤講師
11	5	15	水	1	外科医の個人史	研修医から一人前の外科医になる過程を、個人史の中から話す	桜本 信一	客員教授
12	5	15	水	2	水分・電解質代謝、輸液	水・電解質と、外科侵襲下の輸液管理の習得	牛久 秀樹	外科学
13	5	16	木	1	小児外科(3)	食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、肝・胆・膵、腹壁	田中 潔	新世紀医療開発センター
14	5	16	木	2	小児外科(4)	食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、肝・胆・膵、腹壁	田中 潔	新世紀医療開発センター
15	5	20	月	1	小児外科(5)	食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、肝・胆・膵、腹壁	田中 潔	新世紀医療開発センター
16	5	20	月	2	小児外科(6)	食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、肝・胆・膵、腹壁	田中 潔	新世紀医療開発センター
17	5	21	火	1	外科的栄養法	栄養療法の原理、方法について	比企 直樹	外科学
18	5	21	火	2	術前・術後管理	術前術後管理	山梨 高広	外科学
19	5	22	水	1	外科腫瘍学	癌治療における手術治療の意義など	隈元 雄介	外科学
20	5	22	水	2	滅菌・消毒法	滅菌・消毒の意義と消毒の功罪	中村 隆俊	外科学
21	5	23	木	3	臓器移植と移植免疫（人工臓器、再生医学）	臓器移植の現状と日本における移植医療がかかえる問題点について	海津 貴史	外科学
22	5	23	木	4	侵襲と生体反応	全身性炎症反応症候群（SIRS）、サイトカイン、敗血症について	内藤 正規	外科学

準備学習 (予習・復習)	<p>予習：臨床医学は基礎医学の上に成り立っている。外科学も例外ではない。外科学総論受講前に解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学などの基礎医学について十分に復習し理解していることが必要である。</p> <p>復習：講義内容を教科書を参考に整理する。</p>
参考図書	<p>教科書 『標準外科学』第14版（医学書院） 教科書・参考図書は学生各自の判断で選択する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外科疾患に対する病態生理を理解し、説明できる。 2. 外科侵襲に対する生体反応を理解し、説明できる。 3. 周術期感染症を理解し、説明できる。 4. 術前術中術後管理に必要な事項を理解し、説明できる。 5. ヘルニアの発生を理解するために必要な体壁の解剖を理解し、説明できる。 6. 乳腺・甲状腺・副甲状腺の解剖、生理機能を理解し、説明できる。 7. 乳腺・甲状腺・副甲状腺の腫瘍を含めた病態を理解し、説明できる。 8. 外科治療を要する小児疾患を理解し、説明できる。 9. 外科医として生涯にわたり学習研鑽する必要性を理解できる。
評価基準	年度末試験および受講態度を勘案して評価する。
その他 注意事項	常識と良識をもって受講すること。

医療安全・管理学

科目責任者	渋谷 明隆
担当者	渋谷 明隆*、今戸 智恵(非)*、裏 英珠(非)*
授業の目的	<p>第1学年から3年までに、ヒューマンエラーの特性から医療過誤の実態、予防、事故後の問題解決、質の高い医療提供体制とそれを支える医療マネジメントまでの広い意味での医療安全と医療管理学の基礎を習得してきた。</p> <p>第4学年では、臨床実習前の学年として医療安全の各論と医療マネジメントについて学ぶ。安全で質の高い医療を円滑に実践するためのコミュニケーション、リーダーシップ、フォローシップ、効果的な情報交換や交渉の方策などについて理解できることを目標とする。</p>
教育内容	<p>医療安全やチーム医療の実践は知識や技術の伝授のみで身につけることはできない。医療事故や危機管理の実際の場面をモデルにして自ら考え、考えたことについての討論を通じて、安全で質の高い医療について自ら考え説明する能力を涵養する必要がある。第4学年ではコミュニケーション、リーダーシップ、ネゴシエーションなどについて、ケースメソッドを用いて教授する。また、医療過誤訴訟の実態について現役の弁護士(非常勤講師)から、医療マネジメントの実際について医療経営コンサルタント(非常勤講師、医師)から講義を受ける。</p>
教育方法	<p>ケースメソッドを用いて自ら考え、討議を通じて互いに学ぶ教育方法を実践する。教室では、勇気・礼節・寛容を合言葉に、コミュニケーションの手段として人前で自分の意見を述べることの重要性も学ぶ。</p>

(9/15 コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1					第1年次で実施			
2					第1年次で実施			
3					第2年次で実施			
4					第2年次で実施			
5					第3年次で実施			
6					第3年次で実施			
7	6	3	月	3	医療と法律	医療事故訴訟、医療を受ける側の権利	今戸 智恵	非常勤講師
8	6	14	金	1	医療管理学概論	ケースメソッド教授法概論	渋谷 明隆	医療管理学研究部門
9	6	14	金	2	医療マネジメント	医療マネジメントの現場と課題	裏 英珠	非常勤講師
10	6	21	金	1	医療安全ケース	ケース 研修医の憂鬱	渋谷 明隆	医療管理学研究部門
11	6	21	金	2				
12	6	28	金	1	医療マネジメントケース	ケース 災害医療センターのリーダーシップ	渋谷 明隆	医療管理学研究部門
13	6	28	金	2				
14	7	5	金	1	医療安全管理学ケース	ケース 妊婦のレントゲン検査	渋谷 明隆	医療管理学研究部門
15	7	5	金	2				

準備学習 (予習・復習)	ケースメソッドを用いた授業については事例の予習が必須であり、課題について各自、考えをまとめておくこと。授業中に課題を提示するので授業時間内にレポートを提出する。
参考図書	①医療におけるヒューマンエラー河野 龍太郎 医学書院 ②医療・介護問題を読み解く 池上直己 (日経文庫) ③MBA 流ケースメソッドで学ぶ医療経営学入門 渋谷明隆 (日経 BP) ④MBA 流ケースメソッドで学ぶ医療経営学入門Ⅱ 渋谷明隆 (日経 BP) ⑤医療安全ことはじめ 中島和江、児玉安司 (編) 医学書院 ⑥医療経営フレームワーク入門 渋谷明隆 (日経 BP)
到達目標	1) 医療行為による害を被る患者が相当数存在することを示すエビデンスから患者安全の重要性を説明できる。 2) ヒューマンエラーの概略を述べるができる。 3) 医療事故の原因を列挙できる。 4) 医療事故とヒューマンエラーの関連を説明できる。 5) 医療事故の分析におけるシステムズアプローチの重要性を説明できる。 6) 医療事故の予防における良好なコミュニケーションとチーム医療の重要性を説明できる。 7) 医療事故後の対応や危機管理について説明できる。 8) 医療の質を評価する指標を列挙できる。 9) 安全で質の高い医療を効率的に提供するための自己および医療組織のマネジメントについて説明できる。 10) チーム医療におけるリーダーシップ、フォロワーシップの重要性について理解し適切に行動できる
評価基準	授業中の発言 (20%)、レポートなどの提出 (30%)、筆記試験 (50%)
その他 注意事項	・2コマのみ配当の学年において1コマ以上欠席の場合は、追加レポートを課し、合否を決める場合がある。 ・最終学年の定期試験で行われる試験の受験資格については、最終学年までの総コマ数の1/3以上欠席した場合は受験資格を与えない。

老年医学

科目責任者	阿古 潤哉
担当者	西山 和利*・小野沢 滋(非)*
授業の目的	老年医学では、老年医学関する老化・老年病の疫学、成因などの基礎的知識を習得する。加齢に伴う身体的変化、高齢者に特有な疾患・病態の診断と治療、介護、エンドオブライフケアに関わる考え方を習得する。
教育内容	(1) 老年症候群、フレイル、高齢者総合機能評価（CGA）などの概念を理解する。 (2) 高齢者における薬物動態を理解し、ポリファーマシーを含む問題点について理解する。 (3) 高齢者の脳血管障害の治療、認知症の診断と治療を学ぶ。 (4) 高齢者における終末期医療の問題点、在宅医療の現状と問題点について学ぶ。
教育方法	追加教材・プリントを配布し、スライドおよびビデオ等を用いて講義する。

(8コマ)

講義室：M-33

No.	月	日	曜日	時限	講義テーマ	講義内容	担当者	所属
1	6	11	火	3	老年医学概論《特別講義》		飯島 勝矢	東京大学
2	6	11	火	4	高齢者の脳血管障害	脳血管障害の病態と評価、診断・治療について学ぶ	西山 和利	脳神経内科学
3	6	24	月	3	高齢者の終末期医療	命を延ばす医療から希望を叶える医療へ 死を前提とした医療のあり方	小野沢 滋	非常勤講師
4	6	24	月	4	高齢者の在宅医療	自宅で過ごす を支えるための医療在宅医療の実際と現状について	小野沢 滋	非常勤講師
5	7	4	木	2	高齢者のポリファーマシー《特別講義》	高齢者の多剤服用の問題点とその対処法について学ぶ	小島 太郎	東京大学
6	7	5	金	3	高齢者の認知症	アルツハイマー病をはじめとする高齢者の認知症について、その病態、診断、治療について学ぶ	西山 和利	脳神経内科学
7	7	8	月	1	高齢者の肺疾患・誤嚥《特別講義》	肺の生理的加齢変化、および誤嚥性肺炎の治療と予防について学ぶ	山口 泰弘	東京大学
8	7	8	月	2	高齢者の骨粗鬆症と転倒《特別講義》	高齢者の骨粗鬆症やサルコペニアをはじめとする転倒・骨折リスクを理解し、それらの予防・診断・治療について学ぶ	小川 純人	東京大学

準備学習	老年医学では、内科学一般、さらには神経内科の基礎知識をもちあわせていることが望ましい。また参考図書に目を通しておくことも推奨される。
参考図書	1. 高齢者の安全な薬物療法ガイドラン 2015 日本老年医学会編 メジカルビュー社 2. 改訂版老年医学テキスト 日本老年医学会編 メジカルビュー社
到達目標	(1) 老化に伴う生理学的変化、病的老化を説明できる。 (2) 高齢者総合機能評価（CGA）、フレイルの概念を説明できる。 (3) 高齢者における神経疾患、認知症について説明できる。 (4) 高齢者の医療現場の問題点を理解する。
評価基準	受講態度および筆記試験による。
AV資料	なし
その他注意事項	なし